

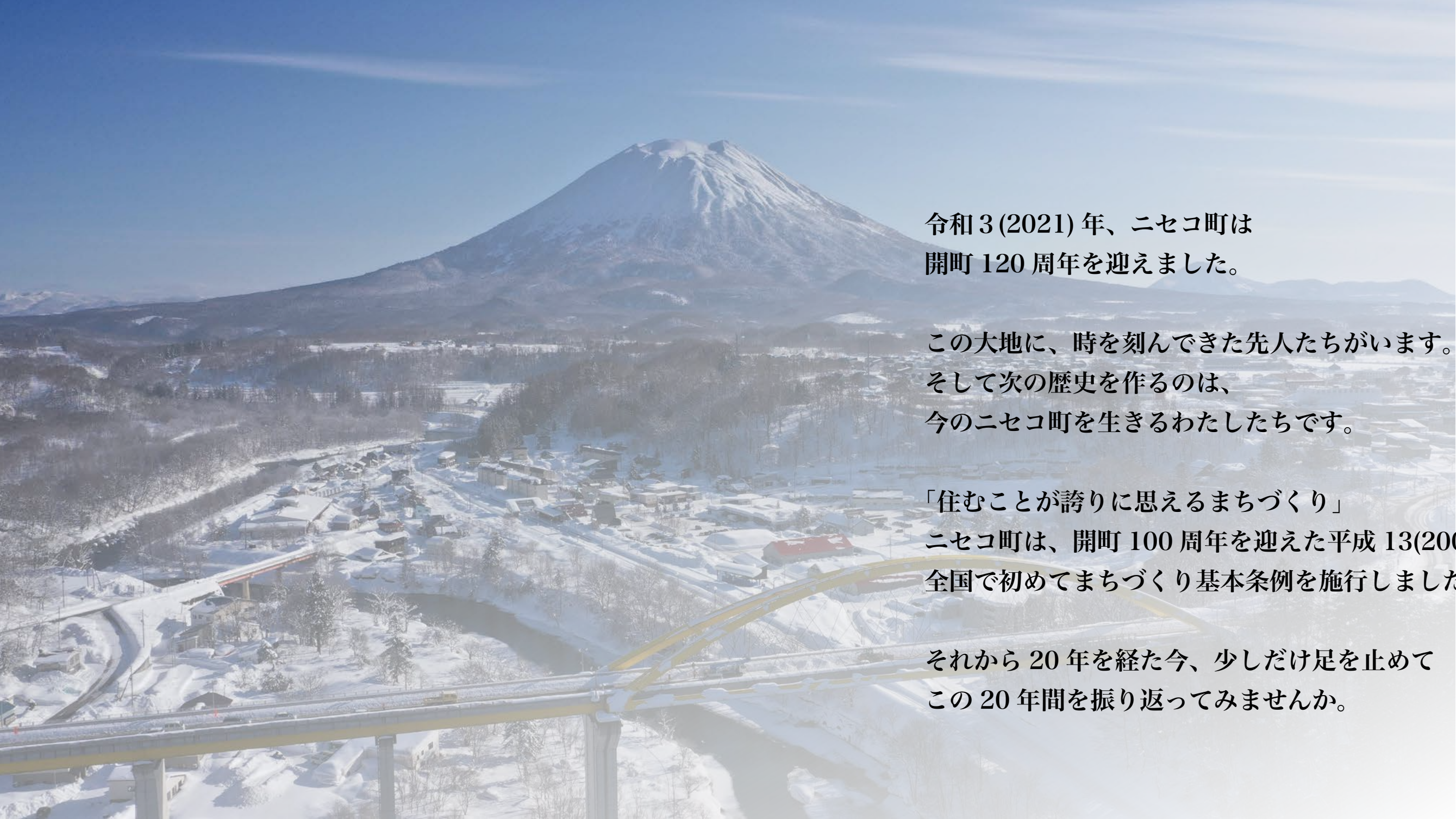
120 years
of
NISEKO

120 years
of
NISEKO

1999-2021 NISEKO Histories ニセコ町 開町120周年記念誌

ニセコ町 開町 120 周年
記念誌





令和3(2021)年、ニセコ町は
開町120周年を迎えました。

この大地に、時を刻んできた先人たちがいます。
そして次の歴史を作るのは、
今のニセコ町を生きるわたしたちです。

「住むことが誇りに思えるまちづくり」
ニセコ町は、開町100周年を迎えた平成13(2001)年、
全国で初めてまちづくり基本条例を施行しました。

それから20年を経た今、少しだけ足を止めて
この20年を振り返ってみませんか。

目次

ごあいさつ	6
お祝いの言葉	7
自然・文化・産業から見るニセコ町	8
22年間のニセコ町のできごと	16
ニセコ町の概要	38
年表	40

Message for...

ごあいさつ

明治 34(1901) 年 11 月、真狩村から狩太村として、分村独立して本年 120 年を迎えることができました。平成 13(2001) 年の 100 周年記念式典から今日までの 20 年の歩みの中には、歯止めがかからない人口の減少と町として存続が危ぶまれる財政危機の中で、町村合併を選択するか否かの大変厳しく苦しい選択の時もありました。

しかし、町民のみなさんの本町への愛着とまちづくりへの弛まぬ努力により、今日の誇りに思える「環境モデル都市・SDG s 未来都市ニセコ町」を築くことができました。

もし、合併を選択していた場合は、今日の環境や景観は大きく変貌し、議論を積み重ねて創った「まちづくり基本条例」も過去の資料として残っているだけのものになっていたものと思います。

今後とも子どもたちの未来のために、子育て環境の拡充や地球環境負荷の低減に努めてまいります。120 年の節目の年にあたって、先人のみなさまのご労苦に感謝するとともに、持続するニセコ町の未来に向かって、さらに挑戦を続けていきたいと思います。

ニセコ町長 片山 健也 KATAYAMA Kenya

2001 年にニセコ町が開町 100 周年を迎えて以来、20 年の歳月が流れました。この間、校舎大規模改修（ニセコ中 2005、ニセコ小 '11、近藤小 '17）、体育館改修（ニセコ小 '13、ニセコ高 '19、近藤小 '19）、近藤小学校増築工事（2021 年度）などの改修等を実施しました。

また、2020・21 年度は全国的に新型コロナウイルス感染症がまん延し、オンライン授業の必要性が高まり、国の GIGA スクール構想に基づき小中高等学校に一人 1 台端末を導入・整備し、現在その活用を図っています。

ニセコ町が今後ますますグローバル化する中で、子どもたちが国際社会でより一層活躍できるよう ICT 等を活用した教育をはじめとした学校教育はもとより、生涯学習・スポーツの充実、文化・芸術の振興などを推進することが重要であると考えます。

明日のニセコ町を担う子どもたちの成長のために、教育委員会は学校関係者、地域住民、町民のみなさまがたと共に取り組んでまいります。

ニセコ町教育長 片岡 辰三 KATAOKA Tatsuzo



ニセコ町議会 議長

猪 狩 一 郎
IGARI Ichiro

このたび、ニセコ町開町 120 周年を迎えるにあたりニセコ町議会を代表し心からお祝いを申し上げます。こうして 120 周年を迎えることができましたのは、これまでのニセコ町の発展にご尽力いただいた先人の幾多の苦闘と本町とかかわりを持ってご支援とご協力をいただいたみなさまの賜物と改めて感謝申し上げます。

近年、世界の景気動向や大規模自然災害、新型コロナウイルスなどの状況が、本町経済へ大きく影響するようになりました。こうした中、町政や議会に寄せる期待や要望は多岐にわたり、私たち議会議員も町民みなさまの意見・要望を町政に反映させるべく日々研さんを続けております。

この 120 周年を機に開町 150 年、200 年に向けたニセコ町のまちづくりを町執行部とも議論しながら進めて参りたいと決意を新たにします。

最後になりますが、ニセコ町のさらなる発展と町民みなさまのご健勝とご多幸をご祈念いたします。



ニセコ町農業委員会 会長

荒 木 隆 志
ARAKI Takashi

このたび、ニセコ町開町 120 周年を迎えるにあたり、農業委員会を代表し、心からお祝いを申し上げます。

私たちの尊い先人が、秀峰羊蹄やニセコ連峰が見守るこの恵みの大地に鍬を入れてから、永きの歳月が経ちました。

ニセコ町の農業は、安全で品質の高い農畜産物を提供するための一端を担うとともに、観光産業との連携を図り、多様化する消費者ニーズにも応えながら、町の基幹産業として非常に大きな役割を果たしてきたと認識しております。

私たち農業委員会は、農業者の良き相談相手として、農業・農村振興に寄与できるようニセコ町をはじめ、農業関係機関のみなさまと共に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、ニセコ町のますますのご発展と町民のみなさまのご健勝を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



東京ニセコ会 会長

穂 山 貞 夫
HOYAMA Sadao

故郷ニセコ町が開町 120 周年を迎えられましたことに心からお慶び申し上げます。

ニセコ町百年史には明治 34(1901) 年 11 月真狩村から分村し狩太村として独立と記されています。故郷の発展は多くの方の弛まぬ努力と町民に培われた相互扶助精神の賜と思っています。

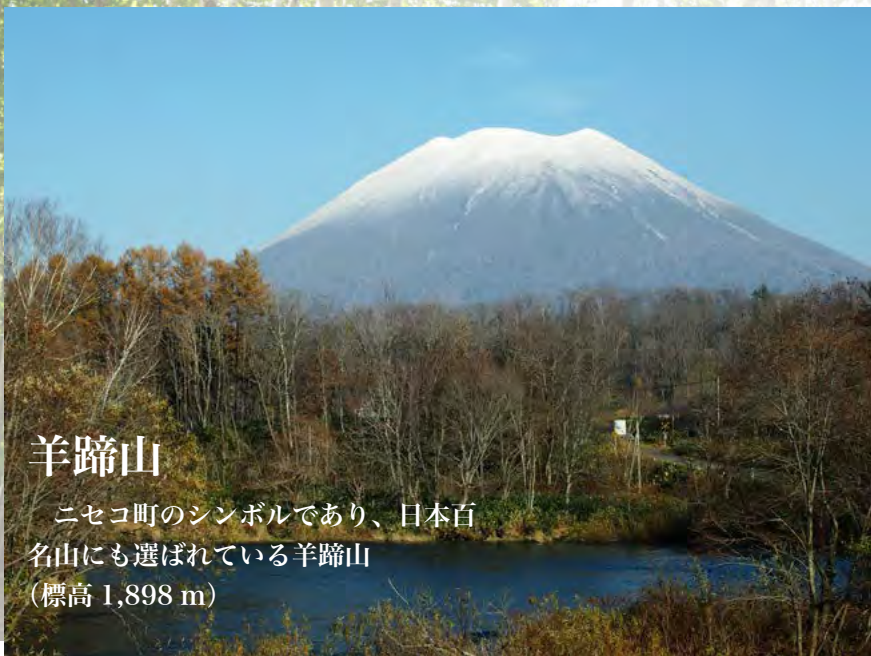
東京ニセコ会は会員相互の親睦を図り、故郷の繁栄に寄与することを目的とし、平成 22(2010) 年 3 月に創立しました。立ち上げでは片山健也町長はじめ山本契太商工観光課長（当時）に温かい激励をいただきました。創立後は増して多方面から心温まるご協力とご支援を受け、お陰さまで 2020 年 3 月に 10 周年を迎えました。会員並びに関係者のみなさまに深く感謝を申し上げます。

故郷は未来に向けた SDGs プロジェクトをはじめさまざまな課題に取り組まれています。故郷が世界に誇れる町として発展し続けられることをご祈念申し上げます。

Nature

子どもたちに良い環境を残したい

自然環境



羊蹄山

ニセコ町のシンボルであり、日本百名山にも選ばれている羊蹄山（標高 1,898 m）



ニセコアンヌプリ

良好なパウダースノーに恵まれるニセコアンヌプリ（標高 1,308 m）は、世界中からスキーヤーが訪れます。

Interview 吉岡俊彦さん

尻別川の未来を考えるオビラメの会会長



有島ポンドの親魚となったイトウのはく製

「17 歳でニセコ町を出て東京へ。子どものとき、大きなイトウを背負って歩いている大人を見ていました。釣りがしたいという思いもあり、27 歳でニセコに戻りました」。

1970 年代には尻別川でも 1 m を超すイトウが釣り上げられていましたが、河川改修などの生息環境の変化により繁殖場所が失われ、1990 年代には「幻の魚」とまで言われるようになりました。そこで吉岡さんたち釣り愛好家や研究者、地元住民が、尻別川のイトウ個体群を復元するために、30 年かけて変質した尻別川の生息環境を 30 年かけて復元していこうと平成 8(1996) 年に「尻別川の未来を考えるオビラメの会」を結成。

町の協力を得て、有島記念館近くにイトウの蓄養池（有島ポンド）を造成し、採卵、稚魚育成に取り組んでいます。



町の鳥

アカゲラ

町の花

ラベンダー

町の木

シラカバ

尻別川

清流日本一に何度も選ばれ、幻の魚イトウも生息する尻別川。ラフティングのメッカともなっています。

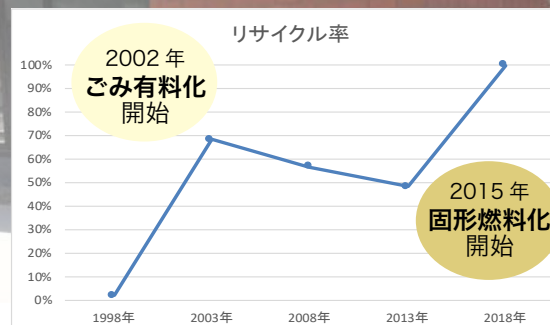


ニセコ町役場新庁舎

2021 年 3 月にニセコ町役場新庁舎・防災センターが完成し、同年 5 月 6 日から業務を開始しました。高性能断熱材、高性能窓の導入により、全国の庁舎でもトップレベルに位置する省エネ性能となっています。

ごみ分別収集・有料化始まる

平成 12(2000) 年から、本格的なごみの分別収集とリサイクルが始まり、2002 年には堆肥センターと一般廃棄物最終処分場が稼働し、ごみの有料化が始まりました。1998 年にはリサイクル率がわずか 2% にすぎませんでしたが、町民一人ひとりのごみの減量と分別により、2003 年には 68% と急速にリサイクルが進みました。2015 年からは固形燃料化がはじまり、今も高いリサイクル率を維持しています。



環境モデル都市・SDGs 未来都市に選定

ニセコ町は平成 26 (2014) 年に環境モデル都市に選定されました。環境モデル都市とは、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げ、先駆的な取り組みにチャレンジする自治体のことです。

また、2018 年には、SDGs に関する優れた自治体の取り組みを国が選定する SDGs 未来都市に選定されました。さらにその中から、具体的な事業展開について国が支援する「モデル事業」にも選定されています。



環境モデル都市選定証を内閣府大臣政務官より授与

Interview 本間泰則さん

ニセコワイナリー・
ニセコ町環境審議会会長



本間さんは、国際機関や国内メガバンク、外資系銀行に勤務したのち、早期退職。海外での駐在時代より長年抱いていたワイナリー経営の夢を実現するため、2005 年に近藤地区にブドウ畑にするための土地を取得。2008 年からブドウの栽培を開始、2010 年よりニセコ町に定住し、さらに 2016 年からは醸造免許を得て、環境と身体に優しいオーガニックスパークリングワインの醸造・販売を行っています。

長年、町の環境審議会会長も務められている本間さん。「ニセコの素晴らしい自然環境と、国際市場に直結する『NISEKO』のユニークな市場特性を生かし、環境にやさしい農業と高級オーガニックワインの生産を通して、環境モデル都市、SDGs 未来都市の政策実現と地域の経済循環の拡大に貢献したい」と、ニセコ高校生などの実習も積極的に受け入れています。

Culture & Community

「ひと」がニセコの魅力を生み出す

有島記念館

ニセコ町は、大正時代に有島武郎が農場の無償解放をした土地です。武郎の遺訓である「相互扶助」の精神は、今もニセコの地に根づいています。



ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」



ニセコ町学習交流センター「あそぶっく」



ニセコ中央倉庫群



ニセコ町コミュニティFM
ラジオニセコ

Interview 亀田禮子さん

前ニセコ町
文化協会会長



昭和41(1966)年5月、33歳の時に同志とともにニセコ詩吟同好会を設立。その後今まで、師範として多数の門下生を育成してきました。またニセコ俳句会を立ち上げ、2021年3月まで会長を務めるなど、ニセコ町の文化を担う第一人者としてご活躍されてきました。

明治の開拓者である祖父母や大正の商人として町に貢献した父(初代北海信用金庫ニセコ支店長)、母を見て育ち、人の役に立ちたいと生きてきた亀田さん。詩吟や漢詩といった好きなことに出会い、自分の信念を貫いた人生はとても楽しかったそうです。

「人は出会いから学ぶ。感動する心を忘れないでほしい。それが生きる意味につながる」、「一歩踏み出すと、2歩3歩と続けられる。一歩踏み出す勇気をもって」とこれからのニセコ町を担う私たちにエールをいただきました。

Sports



ニセコマラソンフェスティバル
毎年9月に開催されるニセコの雄大な自然の中を走るフェスティバル。アップダウンの厳しいコースから親子でのんびり走れるコースまで、ハーフ、10km、3km、ファンランの種目があります。



ふれあい 町民運動会

毎年7月に行われる町内会対抗のレクリエーションイベント。小学生からシニアまで幅広い年代が参加、交流や親睦を深めます。



ニセコスキー フェスティバル

教育委員会主催で毎年2月に開催。2019年からは「スキー大会」から「スキーフェスティバル」に名称変更しました。

Interview 吉岡大輔さん

2006年
トリノ冬季オリンピック出場選手
町民栄誉賞受賞者



僕が今でもスキーを続けているのは、ニセコ町で生まれ、ニセコの山や川、また雪といった環境があったからだと思います。

豊かな自然や海外の方が多くいることなど、ニセコは特別な環境です。ニセコの子どもたちには、そんなニセコでいろんなことに興味を持つように心がけて生活すること、そして興味を持ったことには積極的にチャレンジする人になってほしいです。

Interview 勝野天欄さん

2000年生まれのプロスキーヤー



中学生のときに、先生や親だけでなく、スキーの世界で出会った大人や同年代の海外の仲間たちと語りあったことが、自分の進路や生き方に大きく影響を与えました。幸いニセコにはさまざまな人がいるので、子どもたちには違うコミュニティに入っている人になってほしいです。自分もプロスキーヤーとして1つの生き方を子どもたちに示していきたいと思っています。



tenrakatsuno.com



Agriculture & Forestry

大地の恵みを次世代につなぐ

約 150 戸の農家が、2,200ha の田畑から 26 億円弱を生産。

環境保全型農業にも力をいれており、減農薬・減化学肥料などを進める北海道基準（Yes! Clean）の拡充を図ってきました。有機農業の試みも小規模農業者の間で進み、慣行農業と並んでニセコ農業の多様化を担っています。



稲刈り体験

農家の協力で、毎年町内の学校に通う児童たちが田植えや稲刈りを体験します。



ニセコ町産業まつり

毎年 10 月中旬にニセコの大地の恵みに感謝するお祭りを開催しています。

Interview

よしふみ
川原与文さん

有限会社川原種苗代表取締役

道内に種苗会社はわずか 40 社ほど。その 1 つがニセコ町の川原種苗です。祖父が始めた種苗会社を父が引き継ぎ、与文さんが 1998 年に法人化しました。

「種苗は取り組む人が少ないこともあり、マニュアルがありません。20 代のときに『規模では一番になれない』と思い、『品質で勝負しよう』と考えました。『自分が育てた苗がお客さまから『いいぞ』と評価されたときは、かなりうれしい。』『人間は太古の昔からその土地で生産したものを食べて生きてきました。一次産業やものづくりに携わる人は尊いと思います。』『人は空気や水がきれい、景色のいい場所を居心地がいいと感じます。』

コロナ禍を経験した私たちがこれからのニセコを生きるにあたり、川原さんの言葉にはたくさんのヒントがあふれていました。



アスパラ
Asparagus



メロン
Melon



米
Rice



じゃがいも
Potato



ニセコ町の特産品

ニセコには、小さいながらも地元の素材を大切にした特産品がたくさんあります。乳製品を使ったスイーツ、原料にこだわったチーズ、パンなど。日本酒やオーガニックワイン、地ビールなどアルコールも充実してきています。



道の駅ニセコビュープラザ直売会

平成 9(1997) 年にオープンした道の駅は、2014 年には国土交通大臣が選定する重点「道の駅」にも選ばれました。

ビュープラザ直売会は、農家が共同で運営しており、新鮮・安全・豊富な品ぞろえが好評を得ています。



JA ようてい
雪利用米穀貯蔵庫



ニセコ町
堆肥センター

Interview

高橋守さん

六次産業の先駆けとも評される高橋牧場ニセコミルク工房。高橋牧場のしぼりたて牛乳を使った「飲むヨーグルト」などの加工品は、町内はもとより全国に多くのファンがいます。

守さんは、20 歳で酪農の道に進みましたが、牛の餌となる牧草の収量を増やすための窒素肥料が原因で、多くの牛が立てなくなる事態が発生。この経験から「土づくり・草づくり・牛づくり」が根本であるという思いを強くし、土づくりから変えていきました。

「苦しい経験があるから挑戦できました」と話す守さんは、1997 年 45 歳のとき、ミルク工房を開設。その後、次々に新しいお店をオープンしています。

「かつてこの地を開拓した曾我子爵は農業をすごく大事にしてくれました。時代が変わっても、根本的なことは変わりません。先人が残してくれた貴重な大地を、これからも受け継いでいきたい」。ニセコの将来も展望し、守さんの挑戦は続きます。

株式会社高橋牧場ニセコミルク工房
代表取締役





世界中から雪を求めてニセコへ

ニセコの雪は適度な水分を含み、浮遊感が高く、やわらかい独特な雪質です。その雪質を求めて世界中から多くのスキーヤーやスノーボーダーが訪れます。

Commerce & Tourism

ひとを魅了しつづけるニセコの魅力

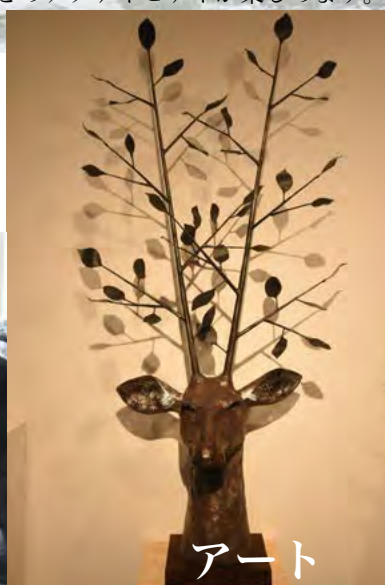


温泉

魅力は、
雪だけじゃない。



クラフト

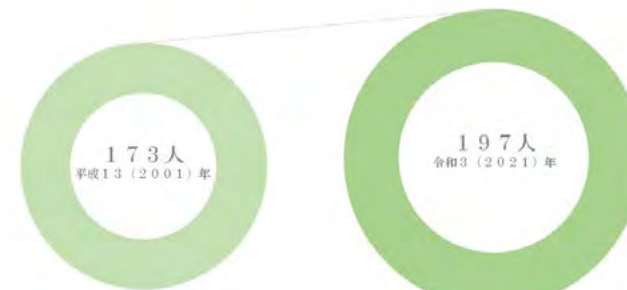


アート



町の中央を流れる尻別川では、ラフティングやSUP、カヌーなどのアクティビティが楽しめます。

ニセコ町商工会の会員数



資料：ニセコ町商工会

ニセコ町商工会の会員は近年増加傾向にあります。その最大の要因は、移住者を中心に、新たに起業する人が多く、その人たちが商工会に加入していることです。町やニセコ町商工会では、「にぎわいづくり起業家等サポート事業」やビジネススクールの開講、地域おこし協力隊制度の活用など、起業を応援する仕組みづくりに取り組んでいます。



小さなふるさとづくり「七夕のタベ」



歩くことを楽しむ「フットパス」

町の取り組みに共感して進出する企業



ニセコ蒸溜所

景観・環境を守りつつ
良好な開発を呼び込む仕組み

- ◆ニセコ町景観条例
- ◆ニセコ準都市計画
- ◆ニセコ町水道水源保護条例
- ◆ニセコ町地下水保全条例

令和2(2020)年には茶葉生産大手の「ルピシア」が東京代官山から本社移転。2021年には新潟の八海醸造の関連会社ニセコ蒸溜所が、ニセコアンヌプリの麓でジンとウイスキーの製造を開始しました。

Interview

しんやあきお
新谷暁生さん

ニセコ雪崩調査所所長



ニセコといえばパウダースノー。今や世界中から多くのスキーヤー・スノーボーダーが訪れ、世界のスノーリゾートと肩をならべるまでになりました。その背景には、滑り手の自由を尊重し、その安全に重大な関心を持つ「ニセコルール」の存在があります。

1980～90年代、ニセコは日本で雪崩事故の最も多い山でした。雪崩による痛ましい事故を防止するため、新谷さんは1994年「なだれ情報」の発信を開始。スキーヤーとスキー場関係者が直接意見交換できる「ニセコ雪崩ミーティング」も始めました。

「どんなにいい情報、いいルールでも信頼されないと事故は防止できません。そのために、ニセコに滑りに来てくれる人に感謝の気持ちを持って、信頼関係を築くことを大事にしています」。新谷さんは75歳になる今も、雪崩事故防止の最前線に立っています。

Interview

松本恵子さん

ニセコ町商工会女性部部長



ニセコ町商工会女性部は会員33人(2021年3月末)の女性で組織する会です。この会の部長を務めるのが、居酒屋「松」のママでもある松本恵子さん。

近年多くの飲食店がオープンするニセコ町ですが、「松」を始めた約30年前、ニセコ町には居酒屋がありませんでした。「新しいお店ができることで、お互いに切磋琢磨し、よりよい店にしていけるので、新しいお店が増えるのは大歓迎です」。

それは商工会メンバーも同じ。「市街地だけでなく、スキー場近くのペンションや最近ニセコ町に来て起業した人にも商工会に入りませんか、と声をかけます。外からの声を聞くことで向上心が高まります」。

「私は部長として、みんなの意見を大事にしながら活動していきたい。何かあったら私が責任を持ちます」。

このような人がいるからこそ、新しい挑戦を始める人が多く来てくれるのではないのでしょうか。

平成12年

前文

ニセコ町は、先人の労苦の中で歴史を刻み、町を愛する多くの人々の英知に支えられて今日を迎えています。わたしたち町民は、この美しく厳しい自然と相互扶助の中で培われた風土や人の心を守り、育て、「住むことが誇りに思えるまち」をめざします。

まちづくりは、町民一人ひとりが自ら考え、行動することによる「自治」が基本です。わたしたち町民は「情報共有」の実践により、この自治が実現できることを学びました。

わたしたち町民は、ここにニセコ町のまちづくりの理念を明らかにし、日々の暮らしの中でよろこびを実感できるまちをつくるため、この条例を制定します。

ニセコ町 まちづくり 基本条例が議会で可決

12月22日

12月19日に始まった第6回町議会定例会議の4日目、22日に「まちづくり基本条例案」に関する議会審議が行われました。賛成議論、反対議論の激しい応酬の後に採決が行われ、午後1時38分、賛成10対反対5で可決・制定されました。

この条例は、平成6(1994)年に新たに町長になった逢坂誠二が掲げた「情報共有」と「住民参加」のまちづくりからはじまりました。これを保証する仕組みとして、1999年に、役場内部で「自治基本条例」の必要性が提起され、検討を進めてきました。

この年は4月に「地方分権一括法」が施行され、地方分権時代の流れが全国におよび始めていたこともあり、「まちづくり基本条例」議会可決は大きな全国ニュースになりました。

6月

川の利用のルール作りに向けた話し合いが、NPO法人しりべつリバーネットなど住民団体を軸に多様な主体間で行われ、『しりべつ川の約束』と題するルールが合意されました。

このルールが発端となり、3年後にはさらに多くの住民団体や経済団体、行政機関等河川関係諸団体の参加も得て、『みんなでつくる川のルール』につながりました。

また、この合意形成に一定の法的根拠を付与するため2006年には、流域の7町村、喜茂別町、京極町、倶知安町、ニセコ町、蘭越町、留寿都村、真狩村が同一内容の「尻別川統一条例」を制定しました。

尻別川は1999～2019年まで清流全国ランキング(国土交通省主催)で、18回('03、'08除く)清流日本一に選ばれています。

「しりべつ川の約束」 ルールを合意



平成11年 「情報公開条例」 「個人情報保護条例」 スタート

4月1日

平成10(1998)年の町議会9月定例会で「情報公開条例」と「個人情報保護条例」が可決。その運用が4月から始まりました。

条例の作成にあたっては、広報広聴検討会議や町民が参加する検討会、まちづくり町民講座などさまざまな協議の場を設けて検討してきました。町では、町民みなさんの意見やまちの情報共有化に関する具体的な考えをできるだけ条文に盛り込むよう工夫し、この条例ができあがりました。



住民参加の大前提となる情報公開ですが、行政が持つ個人情報などプライバシーに関する情報はしっかり守るよう、情報公開条例と表裏一体の条例として、個人情報保護条例を併せて制定しました。

民主主義の原理、住民自治の原点として、情報の公開と共有化に向けた条例がスタートしました。

集落再編に伴う 地域コミュニティセンターの 建設が進む

この年、里見地域コミュニティセンターが完成し、12月23日に落成祝賀会が行われました。地域コミュニティセンターは、町が建設し地域のみなさんが自ら運営や管理を行います。

農家戸数の減少や住民の高齢化などで、弱まった農村集落の働きがきっかけとなり、集落の力を再び取り戻そうと平成9(1997)年から始まった集落の再編。「里見地区親交会」は、前年1月に、富丘・里見・別太の3集落、27戸が合併して誕生しました。集落の再編に伴う地域コミュニティセンターの建設は、近藤親交会(共栄・光栄・東・豊里)、元町親交会(元町・松岡・新興)に続き3棟目です。

翌年の2000年には、ニセコ親交会(藤山・尾の上・ニセコ)にニセコ地域コミュニティセンターが建設されました。



平成14年

綺羅街道完成

2月

綺羅街道が完成し、2月28日に町民センターで祝賀会を行いました。
綺羅街道は、ニセコ大橋の着工（1988年）を契機に、本通商店街活性化や街並み整備の要望が起こり、平成2（1990）年から沿道の住民が協議会を組織し、検討してきました。多くの議論・検討を重ねた結果、事業開始から完成まで14年を要した一大事業となりました。

綺羅街道は、地域の景観形成基準を設け、街づくり協定書のもとに統一されたニセコらしい景観となっており、全国都市景観大賞など景観に関連した賞も多数受賞しています。

整備後は毎年、NPO法人「ニセコまちづくりフォーラム」が沿線住民と協力し、ニセコを訪れる人々をもてなすため、草花の植栽を行っています。

12月

環境を守るための施設として一般廃棄物最終処分場とニセコ町堆肥センターが完成し、12月3日に一般廃棄物最終処分場のオープニングセレモニーと試験運用を開始した堆肥センターの見学会が行われました。

一般廃棄物最終処分場は、北海道内で初のクローズドデッキ型（屋根と壁がある）最終処分場です。埋立地に屋根と壁を設けることにより、周辺への環境負荷の低減と、水処理などの維持管理経費の大幅な削減が可能となりました。

最終処分場は、町民一人ひとりのごみの減量と分別により、設計当初の利用期間7年を超え平成29（2017）年まで使用し、以降は民間施設へ埋め立て処分を委託しています。

また堆肥センターができたことで、町の生ごみ、下水汚泥や家畜ふん尿の資源化が可能となり、町のリサイクル率が向上しました。

一般廃棄物最終処分場・ニセコ町堆肥センターの操業開始



平成13年

ニセコ駅前温泉 綺羅乃湯オープン



6月1日

綺羅乃湯がオープンし、初日のテープカット式には、約50人が出席し、オープンを祝いました。

綺羅乃湯は、平成6（1994）年のニセコ大橋開通により、交通量の減った中央地区の地域振興策として計画されました。計画段階から住民との情報共有を重ね、設計案の選考は住民参加の検討会議のもと行われました。

本施設の計画段階では、町民からさまざまな要望が出されました。しかし説明会を重ねるうち、「行政と住民」ではなく「住民と住民」による対話が生まれ、結果、その対話により施設の概要・規模が決まり、まちづくり基本方針の象徴的な施設の一つといえます。

なお、開業当初は第3セクター方式の運営でしたが、2004年からは指定管理者制度を導入しています。

子どもたちのまちづくりへの参加準備が進む



4月からまちづくり基本条例の運用がはじまりました。第12条には「満20歳未満の青少年及び子どものまちづくりに参加する権利」について定めています。その第一歩として、教育委員会では「子ども議会」の準備を進めました。

年が明けて翌年1月9日、初めての「子ども議会」が開催され、町内の小中学生16人が子ども議員となり、本物の議会さながらの緊迫あるやりとりを行いました。子どもたちからは、市町村合併、交通安全、中学校の改修問題など、町で懸案となっている課題について、鋭い質問が数多くだされました。

町では、子どもたちの意見をより多く町政に反映させるため、2002年7月には「小・中学生まちづくり委員会」を設置。その後も毎年開催を続け、子どものまちづくりへの参加を進めています。

平成16年

ニセコ町
景観条例制定
運用スタート

町内で宅地の開発や建物の建設が増えてきたことを受け、この年の3月にニセコ町景観条例を制定し、10月に運用を開始しました。景観条例は、町内全域を対象に一定規模以上の建物（高さ10mを超える建築物・工作物、延床面積1,000m²を超える建築物など）を建てたり土地を造成したりしようとする事業者、事前に町との協議や建設予定地の近隣住民への説明会を求めるものです。案内看板など屋外広告物も事前協議が必要です。

令和2(2020)年度には景観条例の一部改正を行い、設計者・施工者を含む開発事業者の立場を明確にするとともに、協議にあたりこれまで運用や解釈の中で取り扱っていた事項を条文に明記しました(2021年4月施行)。

5 町村合併協議会解散、
自立の道を選択

12月31日

地方自治体の財政危機を背景に、全国的に市町村合併の議論が起こり、ニセコ町でも2003年9月に倶知安町と2町で法定協議会を発足。その後、蘭越町、真狩村、喜茂別町が参加しました。

2004年8月、町では合併せずに自立した場合の財政状況をまとめた「財政危機突破計画」を作成し、町内12会場で住民説明会を開催。9月には、住民アンケートを実施。アンケートでは、「合併しないほうがいい」が56%と多数を占めました。

一方、5自治体でつくる協議会では合併後の行政の仕組みなどの意見がまとまらず、9月に蘭越町が協議会から離脱。4自治体で協議を続けましたが、合併のメリットは少ないという結論に至り、12月31日の第13回協議会で解散を承認しました。

ニセコ町学習交流センター

「あそぶっく」開館



4月4日

町では、「町に図書館を」という町民のみなさんからの声と行政情報をよりオープンにするため平成12(2000)年から検討委員会を設置し、図書情報センターの建設を議論してきました。

この検討委員会には町民グループからも数人が審査委員として関わりました。そこで町では、この施設の運営を、図書に理解があり熱心に関わってきた町民のみなさんにお願いすることにしました。これを受けて、町民グループは2月に「あそぶっくの会」を設立。約40人のみなさんが会員となり、オープンに向けて準備を進めました。

「あそぶっく」は、町民組織が運営することで、迅速、柔軟、かつ住民の目線に立った運営が続けられ、今も地域の多くの人が集い交流する人気の施設です。

9月1日

停滞するニセコ地域の観光需要から脱却を図るため、また今後も継続的に安定した運営をしていくため、2000年から観光協会の組織改革の検討が始まりました。

理事会では、観光の現場に柔軟に対応して収益事業を行う民間企業としての側面と、地域全体の観光振興を図る公的機関としての役割の双方を併せ持つ必要が議論され、この年の9月、全国で初めて観光協会を株式会社化しました。資本金は2,000万円で、ニセコ町民と町が50%ずつ出資しています。

道の駅ニセコビュープラザ観光案内所とJRニセコ駅観光案内所で、ニセコ町を訪れるみなさまに観光プランを提案したり、地元のみなさまに旅行をご案内したりしています。またニセコハロウィンなどのイベントの主催や町の特産品の販売を通じて、地域振興に貢献しています。

株式会社
ニセコリゾート観光協会
設立

ありがとう さようなら。

宮田小学校閉校

3月25日

宮田小学校では、同校最後の行事となる閉校式が行われました。

当日は、地域みなさんに加え、歴代の卒業生や教職員などのみなさんが全国から集まり、同校が歴史に幕を下ろす瞬間を見届けました。最後の記念撮影には地域に住むほとんどのみなさんが駆けつけました。

同校の閉校は、校区のみなさんが地域全体で話し合い、同校を失いたくない気持ちをこらえながら、子どもたちのことを第一に考えた末に決断しました。これまでもこの地域では、地域全体で子どもを育て、物事を作り上げてきました。

宮田小学校は閉校しましたが、この地域のみなさんが培ってきたものは、これから出会う人たちを通じ、より多くの人に広がっていくでしょう。



2003年に100周年を迎えた宮田小学校

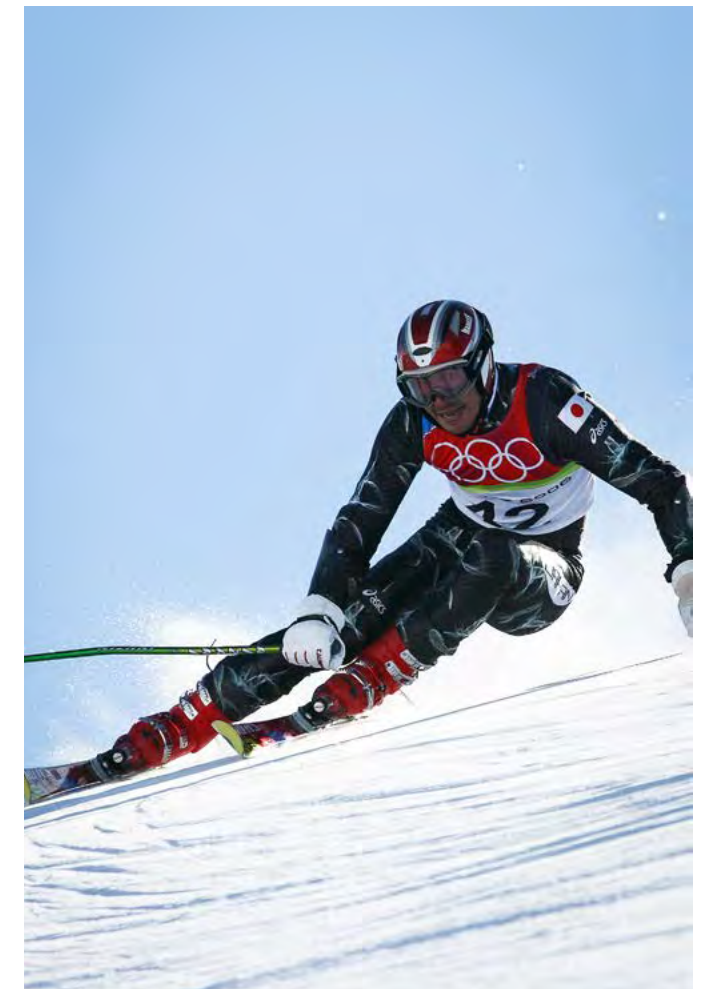
吉岡大輔選手が トリノオリンピック・ アルペンスキー競技に出場

2月

トリノ冬季オリンピックにニセコ町出身の五輪選手として、吉岡大輔さんがアルペン競技（大回転）に出場。世界の中で24位につけました。

吉岡さんはオリンピック出場1か月後の3月、ニセコ町役場を訪れ、オリンピックではスケートリンクのように固くなったコースに戸惑いつつも、観客のみなさんの声援に後押しされ、完走することができたと語りました。

吉岡さんがスキーを始めたきっかけは、父親がジュニアスキーのコーチをしていたこと、兄が競技スキーをしていたことです。子どものときからオリンピックやワールドカップに出場するのが夢で、小学校の作文にもその夢を書いており、26歳で夢を実現させました。



ニセコ産酒米100%の 蔵人衆発売開始

4月1日

町内の酒屋や道の駅ニセコビュープラザで、ニセコの地酒「大吟醸蔵人衆」の販売が始まりました。

このお酒は、町内の米生産者、商工会や農協のみなさんを中心に前年に結成したグループ「大吟醸ニセコ蔵人衆」（久保孝俊代表・当時）が企画し、商品化したものです。

販売前には、関係者による試飲会が開かれ、自慢のニセコ米で造られた「少し甘めで飲みやすい」という大吟醸酒の味を確かめました。

平成11(1999)年に町内で初めて酒米の作付けが行われて7年目。酒造りを通じて、ニセコの米作りのイメージアップを図りたいという米農家のみなさんの情熱により、幾多の困難を乗り越え、新しいニセコの特産品が誕生しました。

ニセコ中学校が 生まれ変わる

3月

校舎の老朽化に伴い、平成15(2003)年から行われていた、ニセコ中学校の改修工事がすべて完了しました。

2003年に完成した教室棟の工事に引き続き、2004年は管理教室棟（理科室や音楽室など専門の教室がある建物）と体育館の工事を行いました。この改修工事では内装に木とガラスが多く使われ、新しい校舎は広々と開放的でぬくもりのある建物に生まれ変わりました。

工事中は仮設の教室で窮屈な思いをしてきた生徒たち。3月5日にはオープニングセレモニーが行われ、新学期から新しい校舎での授業がはじまりました。



平成20年

洞爺湖サミットで
おもてなし

5～10月

7月に開催された洞爺湖サミットにあわせて、国内外から多くの報道関係者が訪れるのにあわせて、町でもニセコをPRするさまざまな取り組みが行われました。

洞爺湖サミット・おもてなしクリーンナップ運動

5月、おもてなしの心でサミットを迎えられるよう、自治会のほか、ライオンズクラブや赤十字奉仕団などが町内のごみを拾う清掃活動を行いました。

北のまるしえ

7月第1週の土日、ニセコビュープラザ直売会がまっかり温泉駐車場で開催されたマルシェに出店したほか、ニセコ町の「じゅうごばあ」がレストラン・マッカリーナと共同企画したメニューを提供しました。

近藤小学校記念植樹

10月16日、サミット開催を記念して各国首脳が会場に植えた13本のうち1本を、近藤小学校児童たちが植樹しました。

ハロウィンカボチャ栽培・
カボチャ落書きコンテスト始まる

秋のニセコを彩るハロウィンカボチャ。この年、岩崎ファームの岩崎とし子さんが立ち上げた「コロボウシとカボチャの物語」実行委員会で、初めて500株のカボチャ苗を育て、秋に公共施設や宿泊施設、綺羅街道など町内に飾って回りました。

また、小田切農園の小田切裕ひろしさんが育てたハロウィンカボチャを使って、中央連合会が第1回カボチャ落書きコンテストを開催。小田切さんが育てたカボチャはニセコ駅前周辺に並べられ、さまざまなイラストが描かれたカボチャがにぎわいをもたらしました。

岩崎さんと小田切さんが育てたハロウィンカボチャは、この年から本格的に町内に並べられるようになり、今もニセコの秋をオレンジ色に染めています。



平成19年

ニセコ町幼児センター
「きらっと」オープン

4月1日

幼稚園、保育所の機能を1つに集約し、子育て支援センターも併設したニセコ町幼児センター「きらっと」がオープン。初日には、オープニングセレモニーが開催され、センターに通う親子やこの春小学校に入学した子どもたちも集まり、みんなでオープンをお祝いしました。その後の施設見学会では、町内はもとより町外からもたくさんの人が訪れました。

町では、就学前の子どもたちにどのような形で教育や保育の場を提供することが望ましいのかを町民のみなさんと一緒に考えてきました。その結果オープンしたのが、地域として総合的に子育てを支援する「きらっと」です。

5日には、このセンターに通う園児と保護者の皆さんが集まり、記念すべき1回目の入園式が行われました。

ニセコ町地域包括支援センターを
役場内に開設

この年から、役場保健福祉課内に「ニセコ町地域包括支援センター」を設置しました。これは、介護保険法が改正され、介護予防が重点政策として追加されたことを受けて、高齢者の生活を総合的に支援するためのものです。

地域包括支援センターでは、検診や訪問、民生委員さんなど地域のみなさんからの相談と協力により、支援が必要な高齢者の生活状況を確認し、現在の生活をより自立していけるように介護予防プランを作ります。

地域包括支援センターの開設により、高齢者のみなさんが体力の低下や認知症などの予防に取り組めるように、「すこやか健康教室」のほか、「貯筋教室」「家族介護教室」などが始まりました。

「じゅうごばあ」 北のまちづくり賞 知事賞受賞

3月30日

農産物加工研究会「じゅうごばあ」(菊地昌子会長・当時)が、北のまちづくり賞で最高位の知事賞を受賞しました。

北のまちづくり賞は、地域の個性を生かし、豊かで創意あふれるまちづくり活動団体に対して、北海道知事が表彰をしています。

「じゅうごばあ」は地元で採れた野菜や山菜を使った料理の開発や町内レストランでの旬の地元食材を使用したランチの提供、町のイベントへの出店などを行っています。代表レシピは「いも団子汁」です。平成20(2008)年に行われた洞爺湖サミットにも協力しました。

「じゅうごばあ」のみなさんは、今回の受賞を励みとして、これからもニセコの「おかあさん」の味を大切に作っていききたいと話していました。



ニセコ千本桜運動、 千本達成

6月6日

桜でいっぱい^{いやてる}のニセコを目指す「ニセコをこよなく愛する会」(中島日出男代表)の主催により、有島地区の通称宮山に、エゾヤマザクラの苗木を植える植樹祭が開催されました。

宮山は、有島武郎が農場解放を宣言した弥照神社が移築前に建っていた小山で、昔はたくさんの桜が咲いていました。

植樹祭では、町内をはじめ倶知安や小樽などのほか、遠くは東京、福岡からも参加した約80人のみなさんが、斜面に次々に苗木を植えていきました。植樹を始めて4年目となるこの年、ついに念願の植樹1,000本を達成。

地域を代表して桐山勝男さん(90歳)が「たくさんの人たちにお手伝いいただき、宮山が桜の山になりました。感無量です」とお礼の言葉を述べました。



新しい学校給食センターで 調理した給食の提供開始



8月

この年の3月に新しい学校給食センターが完成し、外構工事を行ったあと、夏休み明けから、新しい給食センターで調理された給食が各学校に提供されるようになりました。新しい給食センターでは、HACCP(ハサップ)という国際的な食中毒防止基準を導入し、今まで以上に安全・安心な学校給食を調理するため、さまざまな工夫が凝らされました。

工夫1 作業区域の分離：食材の受け入れや食器の洗浄をする区域と調理をする区域を分離し、衛生管理を徹底。

工夫2 ドライシステムの採用：細菌が繁殖しないように床が乾いた状態を保つ「ドライシステム」を採用。

工夫3 調理器具のオール電化：調理に伴う水蒸気を減らし、衛生状態を保つとともに、空調設備の建設コストを削減。

エキノコックス駆除の ベイト散布開始



5月

キツネから人に感染する寄生虫「エキノコックス」。ニセコ町は自然が豊かですが、このことはキツネの感染域と人間の生活圏が重なり、危険が高いということでもあります。そこで、町ではエキノコックスを駆除するために、大学や研究機関が共同開発した方法を採用することにしました。それは、飼い犬や人間が食べても健康に影響がないものの、キツネが食べるとエキノコックスをすべて駆除する威力を持つ「ベイト」という餌を散布するという方法です。ベイト散布の効果の結果が出るには時間がかかるものの、長期的に継続することで確実に効果を上げられます。

町では、この年の5月から毎月ボランティアによる散布が始まり、2021年の現在も続けられています。



平成24年

ラジオニセコ開局 コミュニティ FM 放送開始



3月31日

ニセコ町の旬の情報やくらしに密着した情報などをお届けする、コミュニティFM放送局「ラジオニセコ」が開局。ニセコリゾート観光協会の中島日出男社長が、開局を宣言し、新しいニセコのコミュニティツールがスタートしました。

開局式の会場となった綺羅乃湯には、たくさんの方が集まりました。また、この開局式はラジオニセコの公開生番組として放送され、ラジオの前のみなさんと一緒に開局をお祝いしました。

初年度は札幌の三角山放送局から木原くみ子局長（2019年に逝去）を迎え、宮川博之さん、竹内祥子さんの2人のパーソナリティが、午前7時からの「ニセコモーニング」、午後3時からの「Kira・綺羅・Niseko」を担当しました。

「ふれあいシャトル」に代わり デマンドバス「にこっとBUS」運行開始

10月1日

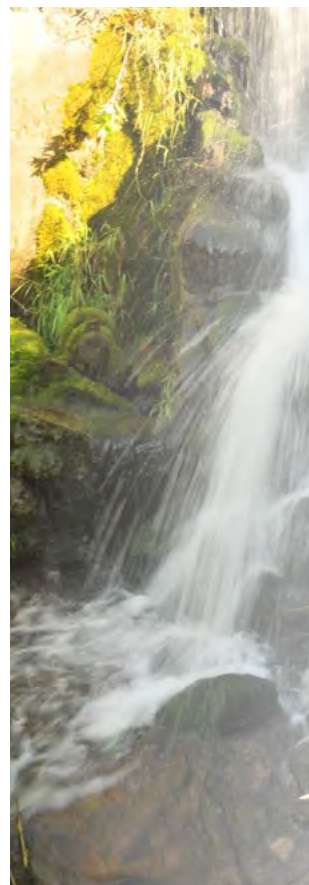
町では、町内循環バス「ふれあいシャトル」を9月末で廃止し、「にこっとバス」の運行を開始しました。

「ふれあいシャトル」は、冬季のバス待ちやバス停までの距離が遠いなどの問題がありました。そこで、経費を増やすことなく利便性を向上させるために、2年間の実証実験を経て、デマンドバスを採用。

にこっとバスは、バスを小型化し、運転手込み10人乗りハイエース2台で、ドア・ツー・ドアのデマンド方式で運行します。より使いやすい予約システムを構築し、事前登録が不要で、初めての人や観光客でも電話1本で予約が可能です。これまでふれあいシャトル路線バスの沿線以外の区域でもバス乗車が可能になりました。



平成23年 ニセコ町水道水源保護条例・ ニセコ町地下水保全条例 施行



5月1日

町では、住民説明会や水資源保全審議会での議論を経て、下記2つの条例を施行しました。

ニセコ町水道水源保護条例

町が指定した水道水源保護地域での開発には住民説明会の開催、町との協議が必要です。また、産業廃棄物処理施設など水質や水量に影響を及ぼす施設は建てられません。

ニセコ町地下水保全条例

揚水機（動力ポンプ）を用いて採取する井戸を設置する場合は、町に届出が必要。さらに、吐出口の断面積が8cm²以上の場合は町の許可が必要です。許可対象となる井戸を使用するときは、水量測定器を設置し毎月の取水量を町へ報告しなければなりません。

許可申請にあたっては、事業者事前に住民説明会の開催、場合によっては住民との協定締結を義務づけています。

ニセコ町民センターが 大改修で生まれ変わる



改修前



改修後

6月～3月

昭和50(1975)年に建設され、築34年を経過したニセコ町民センターの大改修が行われました。

この大改修で、延床面積が1,789m²から2,462m²に増築され、商工会の事務所が町民センターに入ることになりました。また、環境に配慮し、LED電球、外断熱・高断熱樹脂サッシを導入することで、省エネに配慮。町民センターでは、それまでは総合体育館の重油ボイラーで暖房していましたが、自然エネルギーである地中熱ヒートポンプによる冷暖房を導入し、屋根には軌道追尾式太陽光発電を設置しました。

この年には、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）でCO₂を1990年比で2050年までに86%削減するという目標を設定し、町はニセコ高校エアハウス、ラジオニセコ局舎、有島記念館にも地中熱ヒートポンプを導入しました。

平成25年



雪氷熱を利用した米倉庫完成

10月4日

里見地区に JA ようていの雪利用米穀貯蔵庫が完成しました。ニセコのお米は以前、ニセコ駅周辺の倉庫（現・中央倉庫群）で保管していました。しかし、施設が老朽化したことから、JA ようていでは、自然環境を利用したエコでクリーンな施設からおいしいお米を供給するため、雪を利用して冷やす施設を導入することを決めました。総事業費は約 7.3 億円、うち半額は国の補助金、4 分の 1 はニセコ町の補助金を活用しています。

貯蔵できる米は約 1,900 トン。春から夏にかけては、雪解け水による冷風循環システムで、貯蔵庫と事務室が涼しい空気で保たれます。この雪は夏の「七夕の夕べ」イベントの雪山などにも活用され、新米が入る前に取り除かれます。

五色温泉
インフォメーションセンターが
オープン

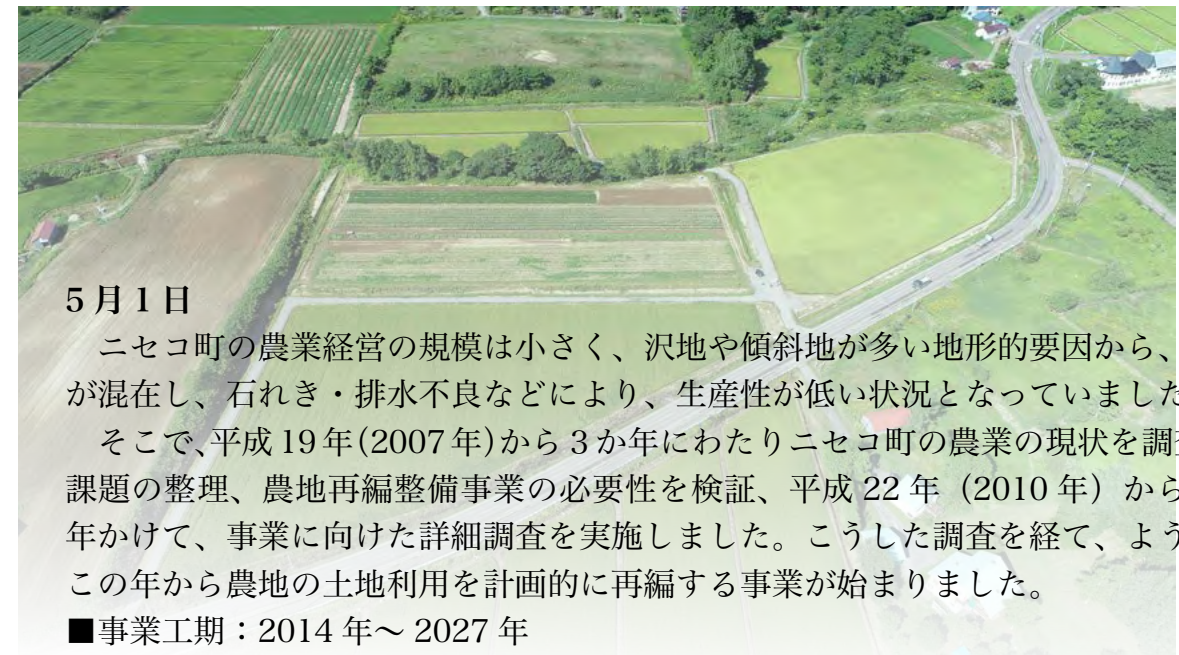
6月16日

この年、ニセコ連山も新緑に包まれ、例年より 2 週間遅れとなったニセコ山開きが五色温泉郷で行われました。この日は、新しくなったインフォメーションセンターのオープニングセレモニーも行われました。

五色温泉インフォメーションセンターは、登山やトレッキング、キャンプなどニセコ山系を訪れる多くのみなさんがだれでも利用できます。豊かな自然を身近に触れられる地域の情報や自然学習についてアドバイスしたり、環境保全へのメッセージを提供したりして、「魅力あるニセコ」を発信しています。

ニセコの農業を
未来につなぐ
～国営緊急農地再編整備事業始まる

平成26年



5月1日

ニセコ町の農業経営の規模は小さく、沢地や傾斜地が多い地形的要因から、田畑が混在し、石れき・排水不良などにより、生産性が低い状況となっていました。

そこで、平成 19 年(2007 年)から 3 か年にわたりニセコ町の農業の現状を調査し、課題の整理、農地再編整備事業の必要性を検証、平成 22 年(2010 年)から 4 か年かけて、事業に向けた詳細調査を実施しました。こうした調査を経て、ようやくこの年から農地の土地利用を計画的に再編する事業が始まりました。

■事業工期：2014 年～ 2027 年

■総事業費：175 億円（当初計画）

■受益面積：1,490ha

■主要工事：区画整理（畑）1,092ha （田）398ha

■費用負担割合：国 75%、北海道 18.3%、ニセコ町 4%、農業者 2.7%

新谷暁生さん、
ワールド・スキー・アワード特別賞受賞

11月22日

オーストリアで行われた「ワールド・スキー・アワード」で、新谷暁生さん（ニセコ雪崩調査所所長）が特別賞を受賞しました。

この賞は、スキー業界のオスカー賞とも称され、スキー業界に大きく貢献した企業に贈られるもので、個人で受賞したのは新谷さんが初めてです。新谷さんは長年にわたり、雪崩調査所の所長として、シーズン中毎朝「ニセコなだれ情報」を発信し、ニセコのスキー場の安全に尽力したことが、高く評価されました。

同年、新谷さんはカナダで開催された ISSW（インターナショナルスノーサイエンスワークショップ）2014 でも、滑り手の滑走の自由を尊重しつつ、最低限の規制を設けたコース外滑走に関するニセコルールの事例を報告しました。



平成28年

ニセコこども館の運営開始

4月

ニセコ小学校の余裕教室を利用して行ってきた学童保育が、児童の増加に伴い余裕教室が利用できなくなり、町ではニセコ小学校の校門隣に「ニセコこども館」を新築し、運営を開始しました。

こども館は、町内の桂台で伐採したカラマツや木質繊維断熱材など木材をふんだんに使い、暖房に地中熱ヒートポンプを採用、建物全体の断熱を強化し、徹底した省エネを実現した施設です。総事業費1.4億円のうち木材や地中熱ヒートポンプの導入に補助金を活用し、町の実質負担は8,700万円ほどとなっています。

開館当時55人だった入所児童数は毎年増加し、2020年からは2階も使用し、定員を増やして受け入れています。



7月16日

羊蹄山ろくの農作物集積場として使用されていた倉庫群が改修され、住民や観光客の交流の場に生まれ変わり、オープニングイベントにあたる「ニセコ倉庫邑2016」が開催されました。倉庫邑イベントは、倉庫群の再活用を広くPRするとともに、再活用策や課題などを探るため、2011年から毎年開催されていました。

イベントでは、オープニング式典でテープカットや餅まきが行われた後、ニセコエリアで活躍するミュージシャンなどによるライブが催されたほか、金工、木工など「ものづくり人」のアートに接する体験ブースが設けられました。また、フードコーナーには、地元の農産物を使用したこだわりのお店が並び、会場には3,000人以上が訪れました。

中央倉庫群リニューアルオープン



平成27年

道の駅
ニセコビュープラザが
重点道の駅に選定

1月30日

重点道の駅とは、地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取り組みが期待できる道の駅のことです。国土交通省では有識者の意見も踏まえて、この年初めて全国1040の道の駅から35か所を重点道の駅として選定し、ニセコ町の道の駅ニセコビュープラザがその1つとして選ばれました。

ビュープラザは、平成9(1997)年に設置されて以来、国際リゾート地ニセコの観光の拠点として、また観光と農業の2つの産業を結びつける場として、その役割を担っています。今回の提案では、観光コンシェルジュや通訳のホットラインによる滞在型観光の促進や地元起業者の商品紹介など来訪者と生産者の交流の場の創出が高く評価されました。

2月

北海道新幹線昆布トンネル宮田工区（全長5,610m）の掘削を手始めに、町内で新幹線工事が始まりました。この工事に合わせて、翌年3月には宮田地区に住むみなさんに向け、工事状況の説明と現場視察が行われました。

北海道新幹線は、東北新幹線の新青森駅から札幌駅に至るまでの延長360kmに及ぶ路線で、札幌延伸区間（新函館北斗・札幌間）の延長211kmは、2012年に認可され、工事が進められています。路線延長の約8割がトンネルであることが特徴で、その中でも昆布トンネルは桂台工区（全長4,800m）とあわせて延長10.41kmの長大トンネルです。

昆布トンネルは、2021年3月に貫通しました。2030年度末の北海道新幹線全線開通に向けて、羊蹄トンネル、ニセコトンネルで掘削が進められています。

北海道新幹線
昆布トンネル宮田工区、
掘削始まる

平成30年

ニセコ町が
SDGs 未来都市に選定

6月15日

SDGsの達成に向けた取り組み、提案を行う自治体として、ニセコ町が国から「SDGs 未来都市」に選定されました。

町はこれまで、「住民参加・情報共有による自治の実践」や「環境モデル都市の取組」、「独自の開発ルールづくり」などのまちづくりを継続して実践し、取り組んできました。

それは、未来の子どもたちに引き継ぐことができる「相互扶助社会」づくり、持続可能なまちづくりの取り組みであり、さらに続けるならば、SDGsの目標達成に貢献する取り組み、SDGs 未来都市としての取り組みでもあります。

同時に「自治体 SDGs モデル事業」にも選定され、ニセコ町がモデル事業として提案した「NISEKO 生活・モデル地区構築事業」を国の支援を得ながら推進していくことになりました。



選定証は、安倍晋三首相（当時）から片山町長に授与されました

9月6日

午前3時08分、胆振地域を震源とした大地震が発生。ニセコ町内で震度4を観測しました。その後、全道で発生したブラックアウトにより、ニセコ町も午前3時25分から全域で停電。

夜が明けると、役場の充電スペースは、多くの町民が訪れ、譲り合いながら携帯電話を充電。コンビニやスーパーの食品の棚はほぼ空に。一方、道の駅は農家の協力により、直売会を営業。館内には充電スペースも設けられ、役場同様多くの人で混み合いました。この間ラジオニセコは、断水などライフライン情報を中心に町民の生活に根差した放送を続け、コミュニティFMならではの力を発揮しました。

夕方から翌日にかけて町内全域で停電が復旧。災害は突然起きること、日ごろから備えることの大切さを思い知る機会となりました。

胆振東部地震により、
町内全域で停電

平成29年

はり絵作家・藤倉さんから作品寄贈、
有島記念館で公開準備進む

後志出身のイラストレーター・藤倉英幸さん（札幌在住）から、はり絵やポスターなど約1万点の作品が有島記念館に寄贈され、有島記念館で公開の準備をすすめました。岩内町出身の藤倉さんが70年代後半から切り絵で、80年代後半からはり絵によって北海道の風景を制作し、JR北海道車内誌表紙や商品パッケージなどで作品は北海道民に広く知られています。

有島記念館で過去に3回の展覧会を開催したほか、記念館のポスターデザインを手掛けるなどゆかりがありました。また景観条例など町が取り組む景観保全と藤倉さんの北海道の風景に対する思いが共通することや、記念館が使命とする美術館機能の強化にもつながることから収蔵が決まりました。

11月4日

「ニセコエクスプレス」は、昭和63(1988)年12月に千歳空港からニセコまで運行を開始した3両編成のリゾート列車です。JR北海道が自社工場で初めて車両製造したことや、グッドデザイン賞を受賞するなど多くの話題を集めました。また札幌との間を1時間40分で結び、町民の冬季の足としても親しまれました。

この車両は北海道の観光に貢献しましたが、老朽化にともない9月に引退が発表されました。11月4日のラストランには、大勢の町民や鉄道愛好家が見送る中、ニセコ駅をあとにしました。

2019年にはニセコエクスプレス1両を里帰りさせるクラウドファンディングが行われ、町内をはじめ全国から資金が寄せられた結果、2021年に開業した「ニセコ鉄道遺産群」に保存・展示されています。

「ニセコエクスプレス」
29年間の運行に終止符

令和2年



まちづくり会社始動！

株式会社ニセコまち設立

7月3日

持続可能なまちづくりに挑戦し、実現することを目指して「株式会社ニセコまち」が設立されました。この会社では、市街地に新たな「街区＝まち」を構築する街区構築事業と地域エネルギー事業の2つを主に行っていきます。

資本金は6,000万円。内訳は町38%、地域事業者34%、一般社団法人クラブヴォーバン28%となっています。公共主導ではなく、それぞれの主体が積極的に取り組む体制を構築することで民間会社が持つノウハウを生かした新しい事業を行っていくため、町からの出資比率は3分の1にとどめました。

設立総会では、同社代表取締役の高橋守さんが「町民にやってよかったと思ってもらえる事業を展開していきたい」と挨拶しました。

7月

新型コロナウイルスを経験し、世界中で新しい生活様式に転換が求められる中、「株式会社ルピシア」が、「ルピシアグルマン」に続き、東京・代官山からニセコ町に本社移転しました。

ルピシアは、コロナ禍になる前の2017年にルピシアグルマンを字元町に移転し、ニセコの農産物を使った総菜などを製造してきました。工場周辺で毎週末に開催されるファクトリーアウトレットマルシェも好評で、町民にも定着しつつあります。

ルピシアは、地元で根差したものを製造したいという思いから、キクイモなどの地域資源を活用した茶葉製造や「地ビール」製造に向けて、景観・環境を守る町の条例に沿って、住民説明会などを重ねてきました。地域に愛される企業を目指して、ビオトープを設けるなど環境に配慮した開発を進めています。

茶販売「ルピシア」 ニセコ町に本社移転



平成31年・令和元年

子育て支援 の輪が広がる



6月

「子育てママの会」が、2017年8月に2日間開催した「ニセコキッズフェスティバル」。1,000人以上の親子が訪れ、子育て支援のニーズが明らかになりました。託児の要望も多く、年末年始やGWなどには「子育てママの会」が託児を始めていました。

そこで子育て支援をさらに充実させるため、「子育てママの会」が母体となって、「NPO法人ニセコ未来サポート隊」が設立されました。理事長の高井裕子さんは、一人ひとりが自分事として考え、手や知恵、お金を出し合い、みんなで協力して活動を進めていきたいと話します。

同団体は、冬の屋内遊び場づくりとして、中央倉庫群で「キッズパーク」を開設したり、グリーンシーズンにニセコアンヌプリ登山を開催したりなど、精力的な活動を続けています。

5月

福井地区は、歩いて行ける距離に病院や商店がなく、今後交通不便者が増加することが予想されました。全国的にも、高齢者の移動手段の確保が課題となり、2018年には国土交通省が道路運送法上の許可・登録を要しない輸送について、ガソリン代など実費相当分として一定の金額を受け取ることが可能な範囲を明確化しました。

そこで、福井地区親交会では、理事会で「助け合い交通」実施を決定。5人のボランティアドライバーが、5月～翌年3月にかけて191人・回の利用を引き受けました。

親交会会長の矢島誠さんは、「私自身、移住してきて近所の人にとってもお世話になりました。いただいたご恩を返していきたい」と思いを語ります。

福井地区で ボランティアドライバー による助け合い交通試行



ニセコ町の概要

位置・気候

ニセコ町は、東経140度48分、北緯42度52分道央の西部、後志管内のほぼ中央に位置し、山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地を形成しています。このため内陸的気候を呈し、平均気温はおおよそ8.0度。また、冬期の最深積雪は200センチメートルにも達することがあります。



平均気温の変化

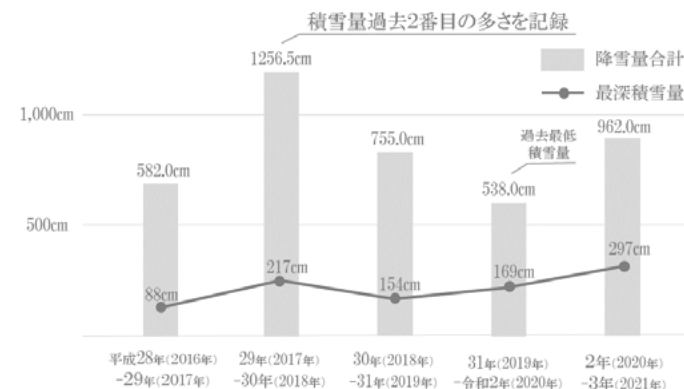
年間を通してみると、1月が最も低く、マイナス5度程度。7～8月が最も高く、20度程度です。

年間平均気温(℃)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成28年	-5.6	-4.1	-0.7	5.5	12.9	15.0	19.3	22.1	17.3	8.2	0.2	-2.7
平成29年	-5.5	-4.3	-1.0	5.6	12.2	14.3	20.9	19.5	15.0	8.7	2.0	-4.2
平成30年	-4.8	-6.1	0.5	5.5	11.2	15.1	20.6	19.5	16.1	10.2	4.1	-2.8
令和元年	-4.7	-4.9	0.2	5.2	13.5	15.8	20.1	20.8	16.7	10.9	1.6	-2.9
令和2年	-4.5	-4.0	1.2	4.4	11.6	16.5	19.7	21.4	18.3	10.3	4.2	-4.0

降雪量と最深積雪の変化

降雪量は、過去2番目の多さを記録した1256.5cmと過去最低を記録した538.0cmのシーズンがありました。

最深積雪は、令和2(2019)～3(2020)年には、297cmにも達しました。

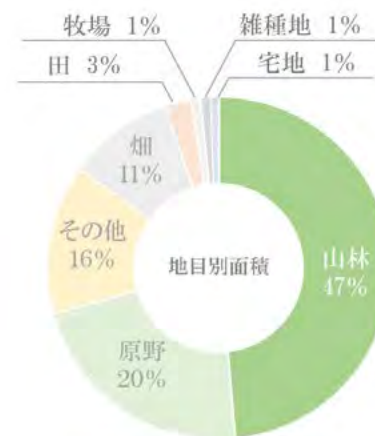


(出典：羊蹄山ろく消防組合ニセコ支署調べ)

地目別面積

山林が全体の約半分を占め、次いで原野、畑の順です。その他には、墓地、境内、水田地、用水路、ため池、保安林、公衆用道、公園が含まれます。

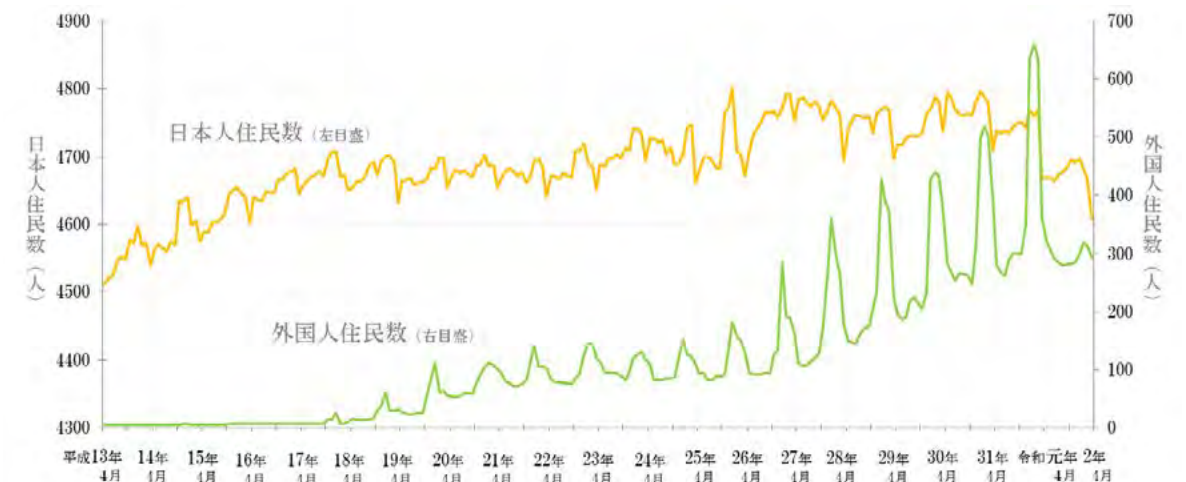
総面積は197.13km²で、北海道内179市町村の平均の半分弱の広さとなっています。



(2020(令和2)年度固定資産概要調査)

日本人及び外国人の人口の推移

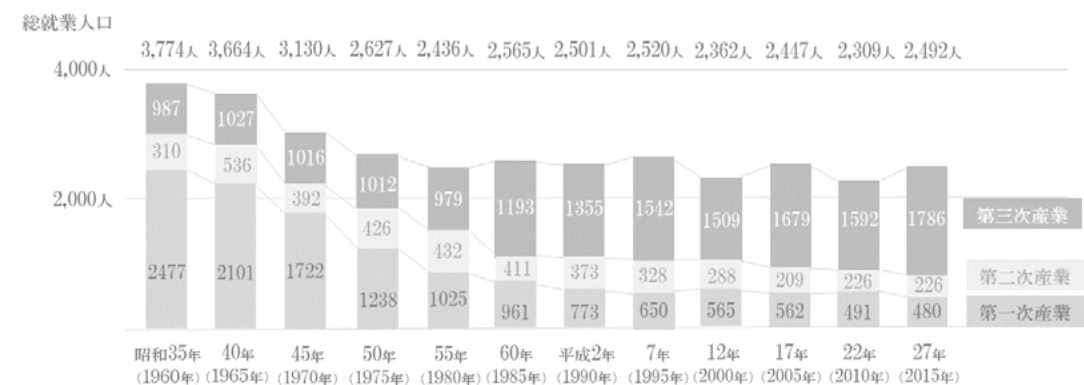
平成17(2005)年ごろから、外国人観光客の増加に伴い、冬季の観光シーズンに合わせて季節労働のために転入する外国人が増え、定住化するケースも多くなってきました。また、まちづくりの進展とともに、日本人の移住者も増加傾向が続いています。



(出典：ニセコ町役場生活課住民係調べ)

産業別就業人口の推移

農業を中心とする第一次産業は年々減少しています。それに対して1980(昭和55)年まで横ばいであった第三次産業が1985(昭和60)年から増え始め、1990(平成2)年には全就業人口の約70%を占めるようになりました。



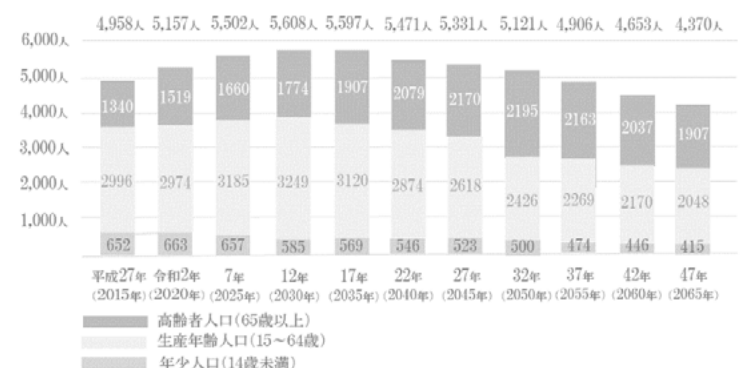
(出典：国勢調査データより)

将来人口の推計

総人口は最も多い年(2030年)で5,608人まで増加し、その後緩やかに減少して、2065年には4,370人になると見込んでいます。特に、生産年齢人口の減少が予測されています。

【仮定条件】

- (1) 純移動率は原則、2010年～2015年に国勢調査(実績)等に基づいて算出された移動率が、2040年以降継続する。
- (2) 合計特殊出生率を1.8に上昇させる。
- (3) 2015年からの10年間で、500人分の住宅整備を目指す
- (4) 「SDGs未来都市計画」に基づき、2022年から2031年までの間に、段階的に約420人が居住する住宅を新たに開発する。



(出典：第2期ニセコ町自治創生総合戦略データより)

ニセコ町のあゆみ（明治～昭和）

- 1880(明治13)年 ・郡役場設置に伴い、現在のニセコ町の町域は西紋鼈（にしもんべつ）戸長役場所轄となる
- 1882（明治15）年 ・現在のニセコ町の町域は虻田村戸長役場所轄となる
- 1897（明治30）年 ・現在のニセコ町の町域は真狩村戸長役場所轄となる
- 1897（明治30）年 ・郡役場廃止に伴い、現在のニセコ町の町域は真狩村（現在の留寿都村、真狩村、ニセコ町、喜茂別町に相当）となる〔10月〕
- 1901（明治34）年 ・真狩村より分村して「狩太村」となる〔11月〕
- 1950（昭和25）年 ・町政施行により「狩太町」となる〔9月〕
- 1964（昭和39）年 ・「狩太町」を「ニセコ町」に改名〔10月1日〕
／駅名改称は1968（昭和43）年4月1日

開町100年～/20年前後のできごと

- 1999 平成11年 ・藤山、尾の上、ニセコの各集落が「ニセコ親交会」として、別太、里見、富丘が「里見地区親交会」として再編〔1月1日〕
・ニセコ郵便局がニセコ町役場前（現・あそぶつく）から現・綺羅街道沿いに移転〔3月〕
・「ニセコ町情報公開条例」、「ニセコ町個人情報保護条例」施行〔4月1日〕
・ニセコ町観光大使に成瀬瞭氏（元・町内ホテル支配人）が就任〔9月7日〕
・「のぞみ団地」が平成11年度「さわやか公住賞（道住宅建設促進会）」受賞〔10月〕
・「五色温泉橋」完成〔10月〕
・里見コミュニティセンター新築〔この年〕
・本通A団地1、2号棟新築〔この年〕
- 2000 平成12年 ・ニセコ町観光大使に初代・林家木久蔵（のちの木久扇）氏が就任〔1月22日〕
・曾我地区開拓百年植樹祭が曾我神社境内などで行われる〔5月31日〕
・町内在住の新谷暁生氏などがアリューシャン列島の一島をカヤックで1周〔6月〕
・「しりべつ川の約束」ルール合意〔6月〕
・「SLニセコ号」が運行開始〔9月〕
・ニセコ町市街地の下水道供用開始〔11月〕
・ニセコ町役場の文書共有化を目的とする「ファイリングシステム」導入着手〔11月〕
・「ニセコ町まちづくり基本条例」がニセコ町議会で可決〔12月22日〕
- 2001 平成13年 ・「ニセコ地域コミュニティセンター」供用開始〔1月10日〕
・「ニセコ町まちづくり基本条例」施行〔4月1日〕
・ニセコ町立国民保養センター「芙蓉荘」（1972年開設）が営業を終了し、代替施設として「ニセコ駅前温泉 綺羅乃湯」開業〔6月1日〕
・「ニセコ町市町村合併庁内検討委員会」設置〔9月13日〕
・ニセコ町開基100年記念事業「NHKのど自慢」がニセコ町総合体育館より放映〔9月23日〕

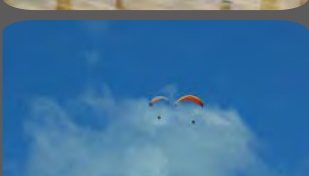


- 2001 平成13年 ・「綺羅街道」が北海道の野外広告コンクール「北海道知事賞」受賞〔10月〕
・「ニセコ町開基100年記念式典」を開催〔10月28日〕
・京極町、倶知安町、ニセコ町の3町による「京極・倶知安・ニセコ合併研究会」設立総会を開催〔12月26日〕
・ニセコ町役場に「ファイリングシステム」導入〔この年〕
・本通A団地3号棟新築〔この年〕
・スキー場外の滑走ルールを定めた「ニセコ（ローカル）ルール」創設〔この年〕
- 2002 平成14年 ・「ニセコ町子ども議会」（第1回）開催〔1月9日〕
・「綺羅街道」完成式典及び祝賀会がニセコ町町民センターにて開催〔2月28日〕
・平成13年度ホクレン夢大賞農業者部門大賞を高橋守氏〔曾我地域在住〕が受賞〔3月〕
・「第1次ニセコ町環境計画」策定〔3月〕
・「第4次ニセコ町総合計画」スタート〔4月1日〕
・ニセコいこいの村（昭和56年12月営業開始）の運営が北海道中央バス株式会社に移行〔4月1日〕
・町内循環バスシステム（愛称「ふれあいシャトル」）運行開始〔4月1日〕
・ニセコ花フェスタ綺羅街道2002開催〔6月〕
・「小中学生子どもまちづくり委員会」設置〔7月〕
・町村合併住民説明会が町内地区別13会場、団体・職域6会場で実施〔7月から8月〕
・「ニセコ町行政体制検討委員会」設置〔7月26日〕
・道の駅ニセコビュープラザリニューアルオープン。農産品直売コーナーが約2倍となる〔8月8日〕
・近藤小学校開校100周年記念式典〔9月〕
・ごみ処理有料化実施〔10月1日〕
・「綺羅街道」が都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」受賞〔10月〕
・「ニセコ町じん芥処理場」廃止〔11月30日〕。山麓6町村が広域利用する「倶知安清掃センター」〔12月1日〕、ニセコ町の一般廃棄物最終処分場（豊里地区）〔12月3日〕が供用開始
・畜ふん、生ごみ、下水道汚泥の堆肥化を行う「ニセコ町堆肥センター」の試験操業開始〔12月2日〕
・西富地区農業集落排水事業供用開始〔この年〕
・本通A団地4号棟新築〔この年〕
- 2003 平成15年 ・逢坂誠二町長が北海道知事選への出馬要請を受け辞職表明したが、町民説明会を開催した後、不出馬を表明〔2月〕
・ニセコ町学習交流センター「あそぶつく」開業〔4月〕
・「住民基本台帳ネットワークシステム」二次稼働開始。住民票写しの広域交付、転入転出の特例処理、住民基本台帳カード交付が可能となる〔8月25日〕
・ニセコリゾート観光協会が株式会社化される〔9月1日〕
・「倶知安町・ニセコ町合併協議会」設置〔9月1日〕
・「蘭越町・ニセコ町・倶知安町」合併協議会設立調印式〔10月8日〕
・宮田小学校開校100周年記念式典〔11月〕
・「蘭越町・ニセコ町・真狩村・倶知安町合併協議会」設立調印式〔11月4日〕
・「蘭越町・ニセコ町・真狩村・喜茂別町・倶知安町合併協議会」設立調印式〔12月5日〕
・ニセコ町環境基本条例制定〔12月19日〕
・ニセコ中学校校舎改修（教室棟）〔この年〕

- 2004 平成 16 年
- ・有島記念館、有島生馬記念館(長野県)、川内まごころ文学館(鹿児島県)が姉妹館提携締結[1月30日]
 - ・中央連合町内会コミュニティセンター供用開始[1月]
 - ・「ニセコ町地域新エネルギービジョン」策定[2月]
 - ・福井地区簡易水道供用開始[6月]
 - ・総務省などによる諸外国の地方自治体等職員受入制度に基づき、海外自治体交流研修職員の受け入れを開始(平成16年度はオーストラリアより1名)[7月]
 - ・合併の是非を問う懇談会を8月から9月にかけて町内地区別13会場延べ254人に対して開催[8月～9月]
 - ・西富地区下水道利用可能となる[9月]
 - ・大型で強い台風18号は、9月8日、北海道に接近し、町内各地に暴風による大きな被害をもたらした。町は同日午前7時30分、町長を本部長とする災害対策本部を設置。負傷者1名、公共施設や一般住宅、停電、農業被害など多数。自主避難先としてニセコ町公民館に避難所を設置。7世帯15名を受け入れ。町内総被害額約3億9千7百万円[9月8日]
 - ・「ニセコ町ふるさとづくり寄付制度」開始[9月]
 - ・町村合併の是非及びその理由を聴取するために、合併に関する住民意向アンケート調査を高校生以上のニセコ町全住民(4,015人)に実施。1,986人から回答を得て(回答率49.5%)、合併しないほうがよい1,106人(55.7%)、したほうがよい442人(22.3%)、わからない309人(15.6%)。また中学生からも聴取した結果は、合併しないほうがよい91人(66.4%)、したほうがよい20人(14.6%)、わからない26人(19.0%)。[9月]
 - ・「ニセコ町景観条例」施行[10月1日]
 - ・曾我、ニセコ、東山地区で超高速インターネット接続サービス開通[12月20日]
 - ・ニセコ町は住民意向調査等の結果も踏まえ、また各町村とも現行合併特例法の期限内での合併は不可能と判断したことから、協議会を解散して単独での自治体運営を選択[12月31日]
 - ・酒米「彗星」初収穫[この年]
 - ・公営住宅(本通A団地4号棟)新築[この年]

- 2005 平成 17 年
- ・「ニセコ町地域省エネルギービジョン」策定[2月]
 - ・株式会社キラットニセコをニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」の指定管理者として選定[2月24日]
 - ・アスベスト(石綿)による健康被害が全国各地で社会問題化したため、「ニセコ町アスベスト対策会議」を設置。8月下旬から役場に相談窓口を設置して住民に対応[8月8日]
 - ・「平成17年国勢調査」を実施。10月1日を調査期日とした結果は、4,669人(前回調査比+116人)、1,896世帯(同+130世帯)となる[10月1日]
 - ・「ニセコ町堆肥センター」に指定管理者制度導入。ようてい農業協同組合を指定管理候補者として選定[10月1日]
 - ・第8代町長に佐藤隆一が当選[10月9日]
 - ・福井地区コミュニティセンター完成[12月]
 - ・「大吟醸ニセコ蔵人衆」により、町産酒米「彗星」のみを使用した地酒「蔵人衆」発売[この年]
 - ・ニセコ中学校校舎(管理棟、体育館)改修・改築[この年]

- 2006 平成 18 年
- ・宮田小学校がニセコ小学校へ統合し、閉校[3月]
 - ・北海道庁により「羊蹄山麓広域景観づくり推進地域」に指定[3月]
 - ・「公共施設の先導的省エネルギーモデル」策定[3月]



- 2006 平成 18 年
- ・まちづくり町民講座が第100回を迎える[3月]
 - ・ニセコ町役場職員を(財)自治体国際化協会東京本部及びオーストラリア事務所に計3年間派遣[4月]
 - ・道の駅ニセコビュープラザ機能向上完成。無線LANシステム設置、情報プラザ棟内物販棚・設備整備、事務室等拡張[10月]

- 2007 平成 19 年
- ・近藤、元町、里見、ニセコ、福井の各地域コミュニティセンターの運営に指定管理者制度を導入し、各地区親交会を指定管理者として選定[1月]
 - ・ニセコ町幼児センター「きらっと」オープン[4月1日]
 - ・ニセコ町役場に「ニセコ町地域包括支援センター」開設[4月1日]
 - ・後志広域連合設立。同年6月より事務運営開始。当初は税の滞納整理事務、のちに国民健康保険事務などに業務拡大[4月24日]
 - ・「ふれあいシャトル」車両に全国初の自転車車外搭載運行開始[5月]
 - ・「一般社団法人ニセコプロモーションボード」設立[9月7日]
 - ・前年2月にトリノオリンピック出場(スキージャンプ競技)の吉岡大輔さんに町民栄誉賞(スポーツ分野)授与される[10月8日]

- 2008 平成 20 年
- ・「放課後子ども教室」事業スタート[1月8日]
 - ・曾我小学校跡地に建設した「曾我活性化センター」落成式[1月24日]
 - ・ニセコ町米生産組合蔵人衆が「ホクレン夢大賞」受賞[3月4日]
 - ・「町民大運動会」を改め「ふれあい町民運動会」(第1回)を開催[6月29日]
 - ・「北海道洞爺湖サミット」開催。報道、警備関係者が町内宿泊施設に滞在[7月]
 - ・光回線による超高速通信サービスが富士見、本通、中央通、元町、有島、近藤、里見、富川、豊里、羊蹄各地域の一部で開始[10月15日]
 - ・そよかぜ通信(オフトーク通信)廃止[12月30日]
 - ・「カボチャ落書きコンテスト」始まる[この年]

- 2009 平成 21 年
- ・ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」入館者100万人達成[1月10日]
 - ・戸籍事務電算化[3月21日]
 - ・エキノコックス駆除対策開始[5月]
 - ・ニセコ、曾我、東山地区の一部に「ニセコ準都市計画」区域指定[3月6日]
 - ・「ニセコ町学校給食センター」新築・運用開始[8月]
 - ・第9代町長に片山健也が当選[9月13日]
 - ・「ニセコ町観光振興計画」(10年間)策定[この年]
 - ・「ニセコ町農業振興計画」(5年間)策定[この年]

- 2010 平成 22 年
- ・雪像を楽しむ「シーニックナイト」(第1回)開催[2月]
 - ・首都圏在住の町出身者などによる「東京ニセコ会」設立[3月6日]
 - ・北海道の支庁再編に伴い「後志総合振興局」発足[4月1日]
 - ・ようてい地域消費生活相談窓口運営協議会設立。相談窓口は同年6月1日よりニセコ町役場に開設[4月1日]
 - ・再生可能なクリーンエネルギーなど地域資源の活用により地域の活性化を図る「緑の分権改革推進事業」実施[4月19日]
 - ・「集落支援員」制度による支援員配置開始[5月1日]
 - ・「ニセコをこよなく愛する会」が有島地区宮山に1000本の桜植樹完了[6月6日]

- 2010 平成 22 年
- ・北海道大学観光学高等研究センターと学術・地域振興等に関する連携協定締結 [9 月]
 - ・「平成 22 年国勢調査」を実施。10 月 1 日を調査期日とした結果は、4,823 人（前回調査比+ 154 人）、2,054 世帯（同 + 158 世帯）となる [10 月 1 日]
 - ・乳幼児～中学生までの医療費無料化実施 [この年]
 - ・ニセコ町新ロゴマーク制定 [この年]
 - ・「じゅうごばあ」が、「北のまちづくり賞知事賞」（3 月）、「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」（6 月）受賞 [この年]

- 2011 平成 23 年
- ・ニセコ町まちづくり基本条例 10 周年記念シンポジウム開催 [2 月 19 日]
 - ・東日本大震災発生。被災地への生活物資提供、避難者の町内受入等支援を行う [3 月 11 日]
 - ・「ニセコ町水道水源保護条例」、「ニセコ町地下水保全条例」施行 [5 月 1 日]
 - ・「ニセコ町地域おこし協力隊」受入開始 [5 月 1 日]
 - ・光回線による超高速通信サービスが宮田、黒川、福井、西富、桂台、近藤など各地域で開始 [2 月]
 - ・黒松内町、蘭越町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町による「ニセコ周辺地域産業活性化基本計画」が国の同意を得る [4 月]
 - ・「札幌市・倶知安町・ニセコ町の M I C E における連携・協力についての覚書」調印 [7 月 22 日]
 - ・東京ニセコ会会員 9 名が「ニセコ町観光大使」に就任 [11 月 20 日]
 - ・ニセコ高校の見学旅行先がマレーシアに [この年]
 - ・町のシンボルキャラクター「ニッキー」の兄「アニッキー」がデビュー [この年]
 - ・地域の多文化共生や異文化理解、国際理解を推進することを目的として「国際交流員」配置開始 [この年]
 - ・ニセコ町民センター大規模改修 [この年]
 - ・ニセコ小学校校舎棟大規模改修 [この年]

- 2012 平成 24 年
- ・「北海道インターナショナルスクール ニセコ校」開校 [1 月 23 日]
 - ・町内の産業などの振興及び発展に寄与することを目的に北洋銀行との連携協定締結 [2 月]
 - ・ニセコ町コミュニティ FM「ラジオニセコ」放送開始 [3 月 31 日]
 - ・「第 2 次ニセコ町環境基本計画」（12 年間）策定 [3 月]
 - ・ニセコ町民センターリニューアルオープン [4 月]
 - ・「第 5 次ニセコ町総合計画」（12 年間）策定 [4 月]
 - ・ニセコ町温泉大使に久世進氏（温泉アナリスト）就任 [4 月 19 日]
 - ・「草地畜産基盤整備事業」開始（2012 ～ 16 年度） [5 月 14 日]
 - ・北海道新幹線開業にともなう並行在来線の JR 北海道からの経営分離に同意 [5 月 17 日]
 - ・ニセコ駅前中央倉庫にて「ニセコ倉庫邑 2012（ものづくり人）」開催 [7 月 8 日]
 - ・「ふれあいシャトル」にかわり、デマンドバス「にこっと BUS」運行開始 [10 月 1 日]
 - ・「北海道水資源の保全に関する条例」施行。町内 11 地区を指定 [10 月 1 日]
 - ・初となる「ニセコ町防災訓練」実施（北海道原子力防災訓練と併催） [10 月 24 日]



- 2012 平成 24 年
- ・北海道日本ハムファイターズ選手のニセコ町応援大使に吉川光夫選手、植村祐介選手が就任（1 年間） [12 月 1 日]
 - ・西富団地 4 号棟新築 [この年]

- 2013 平成 25 年
- ・スポーツ、食と健康などによるまちづくりをすすめるため、北海道日本ハムファイターズと協定締結 [5 月 9 日]
 - ・町税、上下水道料金のコンビニエンスストアでの収納が可能となる [6 月]
 - ・ニセコ町五色温泉インフォメーションセンター改修・供用開始 [6 月 16 日]
 - ・畜産農家に飼料を提供する「ニセコ TMR センター」供用開始 [6 月]
 - ・北海道電気保安協会と災害時協力協定締結 [8 月 30 日]
 - ・羊蹄山麓等を会場とした「アイアンマン・ジャパン北海道」開催 [8 月 31 日]
 - ・JA ようてい雪利用米穀貯蔵庫供用開始 [10 月 4 日]
 - ・福島県国見町と「災害時相互応援協定」締結 [11 月]
 - ・ニセコ高校とマレーシア YTL ホテルズとの連携協定調印 [この年]
 - ・ニセコ小学校屋内体育館大規模改修完成 [この年]

- 2014 平成 26 年
- ・「JAPAN SPORT NETWORK」「スポーツの力」共同宣言署名 [2 月]
 - ・「環境モデル都市」に選定 [3 月 7 日]
 - ・「住民力による地域再生、そして未来再考」をテーマとした「第 22 回環境自治体会議ニセコ会議」開催 [5 月]
 - ・「ニセコ観光圏」（蘭越町、倶知安町、ニセコ町）に認定 [7 月]
 - ・ニセコ周辺を舞台としたサイクルイベント「ニセコクラシック」（第 1 回）が開催 [7 月]
 - ・高齢者グループホーム「きら里」（社会福祉法人ニセコ福祉会）運用開始 [7 月 1 日]
 - ・札幌地区トラック協会後志支部と災害時協力協定締結 [8 月 20 日]
 - ・ニセコ町町民センターで「町名改正 50 周年記念式典」開催 [10 月 1 日]
 - ・旧宮田小学校に「小樽開発建設部後志中部農業開発事業所」開所 [10 月 1 日]
 - ・国営緊急農地再編整備事業「ニセコ地区」事業採択・事業開始 [10 月 25 日]
 - ・2000 年以来、秋季を中心に運行してきた「SL ニセコ号」が運行終了 [11 月 3 日]
 - ・「ワールドスキーアワード」において、ニセコ雪崩調査所の新谷暁生氏を含む町内 5 事業所が 6 部門で受賞（オーストリアにて授賞式開催） [11 月 22 日]
 - ・内閣府より「ニセコ町ワイン特区」認定。小規模施設でのワイン醸造等が可能となる [11 月 28 日]
 - ・北海道新幹線「昆布トンネル」桂台工区着工。町内で新幹線工事が始まる [12 月 13 日]
 - ・国際交流イベント「絵本ワールド」（第 1 回）が開催される [この年]
 - ・「あそぶつく」に指定管理者制度導入 [この年]

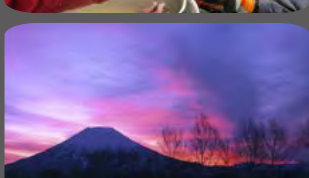
- 2015 平成 27 年
- ・「羊蹄山麓地域一般廃棄物可燃ごみ処理施設」（倶知安町）運用開始。可燃ごみを固形燃料処理する [1 月]
 - ・「道の駅ニセコビュープラザ」が地方創生の核となる優れた取り組みを行う「重点道の駅」に選定 [2 月 26 日]

- 2015 平成 27 年
- ・北海道新幹線「昆布トンネル」宮田工区着工 [2 月 27 日]
 - ・ニセコ町役場に「自治創生室」設置。町の自治創生戦略の策定・推進を担う [4 月 1 日]
 - ・ニセコ町少年消防クラブ結成 [5 月]
 - ・「ようてい・西いぶり地域広域連携会議」設立 [8 月]
 - ・「平成 27 年国勢調査」を実施。10 月 1 日を調査期日とした結果は、4,958 人（前回調査比+ 135 人）、2,274 世帯（同 + 220 世帯）となる [10 月 1 日]
 - ・住民自治によるまちづくりがプラチナ構想ネットワーク「プラチナ大賞」優秀賞を受賞し、北海道初の「プラチナシティ」認定を受ける [10 月 23 日]
 - ・ニセコエリアのまちづくり推進を図るため、蘭越町、ニセコ町、倶知安町と N T T グループ企業との間で「N I S E K O まちづくりパートナー協定」締結 [12 月 8 日]

- 2016 平成 28 年
- ・「ニセコ町自治創生総合戦略」策定 [3 月]
 - ・ニセコ町学童クラブ「ニセコこども館」運用開始 [4 月]
 - ・エネルギーの地域内循環の観点から町内に水力発電所を持つ王子伊藤忠エネクス電力販売株式会社と契約を結び、町営 10 施設に電力供給を受ける [4 月 1 日]
 - ・西いぶり広域連携会議構成 15 市町村と災害時における連絡調整等を目的とする協定締結 [6 月 24 日]
 - ・「ニセコ中央倉庫群」オープン [7 月 16 日]
 - ・ニセコ町幼児センター「きらっと」増築工事完成 [10 月]
 - ・株式会社北海道銀行との「地方創生に関する包括連携協定」締結 [10 月 25 日]
 - ・道道ニセコ停車場線道路・歩道改良完成 [この年]

- 2017 平成 29 年
- ・国際交流イベント「ニセコジャポニカ」（第 1 回）がニセコ中央倉庫群で開催される [2 月 18 日]
 - ・ニセコ町不動産業協会と「ニセコ町における別荘・空き家等の管理に関する協定」締結 [3 月]
 - ・北海道新幹線「ニセコトンネル」着工 [3 月 3 日]
 - ・映画「single mom 優しい家族」（内山理名主演）のロケが有島記念館などニセコ町内で敢行（翌年 12 月町内にて試写会開催） [6 月]
 - ・1988 年以来、千歳空港・札幌とニセコエリアとを結んだ「ニセコエクスプレス」が引退 [11 月 4 日]
 - ・「寿都アンテナショップ神楽」が曽我地区にオープン [11 月 9 日]
 - ・「ニセコ町火葬場」の機能向上を図った「ニセコ斎場」供用開始 [12 月 25 日]
 - ・ニセコ中央倉庫群にテレワーク拠点として活用するため、サテライトオフィス機能等を整備 [この年]
 - ・近藤小学校校舎改修完成 [この年]
 - ・「コミュニティ・スクール」導入 [この年]

- 2018 平成 30 年
- ・「北海信用金庫」が札幌信用金庫、小樽信用金庫と合併し、「北海道信用金庫」となる [1 月 1 日]
 - ・2017 年に有島記念館に寄贈されたイラストレーター藤倉英幸氏の風景画作品など約 1 万点が公開開始 [2 月]
 - ・一般社団法人日本自動車連盟（JAF）と観光振興支援等について協定締結 [3 月 15 日]
 - ・「ニセコ町ふるさとづくり寄付制度」を改正し、「ふるさと納税」制度導入 [4 月 1 日]
 - ・「S D G s 未来都市」及び「自治体 S D G s モデル事業」に選定 [6 月 15 日]



- 2018 平成 30 年
- ・「ニセコヘリポート」を廃止し、場外離発着場に移行 [8 月 14 日]
 - ・台風 21 号が北海道を通過し、ニセコ町では農業被害を中心に 3, 653 万円の被害額 [9 月 5 日]
 - ・平成 30 年北海道胆振東部地震発生。町内は震度 4 の地震が襲い、その後全域が約 1 日間停電。消防等による給水作業のほか、町民センターに避難所開設。ニセコ町では農業、土木被害を中心に 595 万円の被害額 [9 月 6 日]
 - ・「ふるさと住民票」登録制度開始 [10 月 1 日]
 - ・「水資源保全全国自治体連絡会シンポジウム in 北海道ニセコ町」開催 [10 月 4 日]
 - ・食品製造の「ルピシアグルマン」がニセコ町内の工場を操業開始 [12 月]
 - ・世界首長誓約（持続可能な地域づくりを目指すとともに、パリ協定の目標に貢献）に誓約 [8 月]
 - ・ニセコ町が提案した「NISEKO 生活・モデル地区構築事業」が国から自治体 SDGs モデル事業に選定 [この年]

- 2019 平成 31 年・令和元年
- ・株式会社カナモトと災害時における機器供給の協力に関する協定締結 [1 月 31 日]
 - ・北海道新幹線「羊蹄トンネル」有島工区着工 [2 月 5 日]
 - ・建成興業株式会社と災害時における機器供給の協力に関する協定締結 [2 月 28 日]
 - ・国立研究開発法人防災科学技術研究所、倶知安町、ニセコ町が「雪崩事故防止等の雪氷災害防止に向けての連携協力に関する協定」締結 [3 月 22 日]
 - ・「NPO 法人ニセコ未来サポート隊」発足 [6 月]
 - ・ニセコ高校屋内体育館改修完成 [この年]
 - ・「第 2 次ニセコ町環境モデル都市アクションプラン」策定 [この年]
 - ・「第 4 次地球温暖化対策実行計画 [事務事業編]」策定 [この年]
 - ・近藤小学校屋内体育館大規模改修完成 [この年]
 - ・ニセコ町強靱化地域計画策定 [この年]
 - ・街区整備事業「N I S E K O 生活・モデル地区」事業開始 [この年]
 - ・ニセコ町がジャパントイムス主催の第 1 回 SATOYAMA&ESG AWARDS2019 で「SATOYAMA」大賞受賞 [この年]

- 2020 令和 2 年
- ・新型コロナウイルス拡大に伴う危機管理対策本部をニセコ町役場に設置。4 月 8 日に「ニセコ町新型インフルエンザ等対策本部会議」に移行 [2 月 25 日]
 - ・「第 2 期ニセコ町自治創生総合戦略」策定 [3 月]
 - ・ニセコ町ふるさとづくり寄付制度（企業版）開始 [4 月 1 日]
 - ・持続可能な開発を目指す「NISEKO 生活・モデル地区構築事業」及び「地域エネルギー事業」を実施する事業主体として、まちづくり会社「株式会社ニセコまち」設立 [7 月 3 日]
 - ・新型コロナウイルス感染対策に伴う経済対策として、町民全員に町内店舗で使用できる商品券（1 人 3 千円分）を配布するほか、町内事業者による事業者経営維持・未来支援給付金事業として 15 万円を給付。このほか、資金特別融資などを提携金融機関を通して行う [6 月以降]
 - ・「令和 2 年国勢調査」を実施。10 月 1 日を調査期日とした結果は、5,077 人（前回調査比+ 119 人）、2,511 世帯（同 + 237 世帯）となる [10 月 1 日]
 - ・ニセコ不動産協会と別荘等の利活用管理に関する協定締結 [11 月 19 日]

2020 令和2年	・一般社団法人社会創発塾、札幌新陽高校、東明館中学校・高等学校及びニセコ町、ニセコ町教育委員会との教育連携に関する協定締結 [12月1日] ・株式会社ルピシアがニセコ町に本社移転 [この年] ・西富地区町民センター改築 [この年] ・学校給食センター増築機能向上完成 [この年]
2021 令和3年	・新型コロナウイルスワクチン接種に備えるため、ニセコ町役場保健福祉課に感染症対策係を新設 [2月19日] ・株式会社有楽ホテルと災害時の宿泊施設の活用に関する協定締結 [2月5日] ・北海道新幹線「昆布トンネル」貫通 [3月18日] ・立命館慶祥中学校・立命館高等学校、ニセコ町及びニセコリゾート観光協会との連携協定締結 [4月1日] ・ニセコ町と学校法人札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部との連携協定締結 [4月1日] ・ニセコ町役場新庁舎供用開始 [5月6日] ・町ゆかりのニセコエクスプレス等を展示した「ニセコ鉄道遺産群」公開開始 [7月3日] ・ニセコ町が国際的な認証機関「グリーンデスティネーションズ」(オランダ)が実施する持続可能な観光地の認証制度「Top100」に2年連続で選出 [10月]

編さん／有島記念館



引用・参考文献

『広報ニセコ』／『ニセコ町議会だより』／『ニセコ町史』 各該当号ほか

取材協力

吉岡俊彦さん／本間泰則さん／亀田禮子さん／吉岡大輔さん／勝野天欄さん／
川原与文さん／高橋 守さん／新谷暁生さん／松本恵子さん

Special Thanks

ニセコ町のみなさん

編集

ニセコ町 120 年史編さん委員会

佐藤昇平／高田明夫／川原与文／向田 薫／伊藤大介（敬称略）

事務局／ニセコ町企画環境課

ニセコ町開町 120 周年記念誌

令和 3 (2021) 年 11 月発行

発行／ニセコ町

〒 048-1595 北海道虻田郡ニセコ町字富士見 55 番地 TEL 0136-44-2121

ブックデザイン・印刷／株式会社 IDEA NISEKO

〒 048-1522 北海道虻田郡ニセコ町字曾我 731 番地 4 の 4 METSA 2-2 TEL 0136-55-7803